

鎌倉時代語研究文献目録稿

金子 彰

凡例

- 一、本目録は、鎌倉時代語研究に資することを目的とし、研究論文を集録したものである。
- 一、集録にあたっては、以下の点を基準とした。
 - 研究対象の時代は、院政・鎌倉・南北朝期である。
 - 研究の一部で、右の時代の資料を扱ったものも採録に努めた。
 - 不採録のものは、以下の点を基本的原則とした。
 - 国語学等、単行の概説書は省くものが多かった。
 - 書評、紹介、目録等は採録しなかった。
 - 資料紹介、翻刻、伝本研究等の書誌的研究は採録しなかったものが多い。
 - 校注・注釈書と採録しなかったものが多い。
 - 講座類の中を一々あげなかったものがある。
- 一、鎌倉時代語の研究分野を、私に以下のように分類して、研究文献を分属せしめた。(凡例末尾参照)
尚、言韻と表記等の、相互に関連するものは、どちらかに分属させるよう努めていたので、関連ある分野も参照されたい。

表記の項の補助符号の項目は、スペースの都合で他所にも継続掲載している。

一、各分野毎の研究文献の配列方法は、以下を原則とする。

○鎌倉時代語全般研究を最初に配列する。

○更に以下のジャンル順に下位分類して配列する。

1 辞書・音義類

2 悉曇

3 訓点資料

4 和歌・歌謡・連歌類

5 物語・日記

6 隨筆

7 紀行

8 記録

9 史書・史論

10 重記物語

11 説話

12 法論

○同一作品は、研究発表順に配列する。

一、目録の記載項目は、上から次の順に示す。

○論文題目

○執筆者

○前収文献（数字は巻・号）、発行所

○発表年月日

一、記載方法は、新字体で統一するようにし、著書と論文を「□」で区別せず、無注記とした。

一、本目録の作製過程は、次のとおりである。

○初稿（昭和五十一年八月） 著者・執筆者別分類目録

○二稿（昭和五十二年一月） 修士論文の資料として提出

○三稿（昭和五十三年三月） 研究分野別目録に改編

初稿時に金繁真由美氏に、助力を仰いだ。

一、今回は都合で、悉曇・訓点資料関係を多く省略した。補遺を期した。

一、次回は補遺編として、著者・執筆者別索引、資料名索引を考えてみる。

一、採録、分類等、独りの力では不十分な点が多くあることを自覚しつつ、以後の補正に御教示を願う

ものである。此、今回、製版を竹村信治・鈴木恵・松本老隆氏に助けていただいた。謝意を表する。

文献目録項目一覽

一、総記

I 総説

- 1 鎌倉時代語研究
- 2 閑達研究

II 資料研究

- 1 古辞書
- 2 稀疊・訓点資料
- 3 和歌・歌謠・連歌
- 4 物語
- 5 隨筆
- 6 記録
- 7 史書・歴史物語
- 8 軍記物語
- 9 説話
- 10 法語

二、文字・表記

I 総説

- 1 文字全般
- 2 作品研究

II 各説

- 1 漢字

三、音韻

I 総説

- 2 仮名
- 3 仮名遣
- 4 補助符号

II 国語音

- 1 作品研究
- 2 音声・音韻全般
- 3 拗音
- 4 音便
- 5 長音
- 6 連声・連濁
- 7 母音交替
- 8 子音
- 9 濁音

III 漢字音

- 1 作品研究
- 2 音声・音韻全般
- 3 拗音
- 4 入声音
- 5 音便
- 6 連濁

IV アワセント

I 国語音

- 7 母音
- 8 子音
- 9 声調

II 漢字音

四語彙

I 総説

- 1 全般
- 2 作品研究
- 3 漢語
- 4 訓詁語
- 5 記録語類
- 6 和語
- 7 楚語

II 各説

- 1 語史語詞
- 2 副詞
- 3 形容詞
- 4 動詞
- 5 接辞

五語法

I 総説

II 資料研究

III 各説

- 1 体言止係り箱ひ
- 2 複合語
- 3 代名詞
- 4 活用
- 5 動詞
- 6 副詞・形容詞
- 7 助動詞
- 8 助詞

六文章文体表現法

I 総説

- 1 文章
- 2 文体

II 資料研究

- 3 表現法
- 4 敬語法
- 1 文章文体(比較研究)
- 2 文章文体各作品研究

七位相
八索引

一、総記

I、総説

1、鎌倉時代語研究

国語史上の一割期

口語法別記

近古の国語

鎌倉室町時代の言語に就いて

古代中世言語論

武士時代の日本語——鎌倉・室町時代の国語——

古代語から近代語へ

鎌倉・室町時代の国語

国語史研究——上代・中古・中世——

平安鎌倉時代漢籍訓読の国語史的研究

中世語の特質と解釈上の問題点

中世の国語

平安時代語新論

特集曰本語の歴史——中世

日本語歴史文典試論 1

古代日本語、院政・鎌倉時代、南北朝動乱

中世片仮名文の国語史的研究

鎌倉時代の言語体系について

春日政治

大槻文彦

土井忠生

野村八良

折口信夫

土井忠生

浜田 敦

土井忠生

大野 晋

小林芳規

佐藤喜代治

佐藤喜代治

篠島 裕

小林芳規

杉本つとむ

小林芳規

篠島 裕

新潮社日本文学講座 昭3

国語調査委員会 大6

国語科学講座 昭9

国学院雑誌 昭14・7

国学院雑誌 昭15・3

国語と鑑賞 昭29・10

国語学 昭30・9

日本語の歴史 至文堂 昭32・6

国語と国文学 昭40・4

東京大学出版会 昭42・3

国文学 昭44・7

講座日本文学 昭44

三省堂 昭44・6

東京大学出版会 昭44・12

早稲田大学出版部 昭45・1

国語と国文学 昭46・3

国語と国文学 昭49・4

2、関連研究

鎌倉室町時代の儒教

国語学史上に於ける仏者の業績

日本書誌学の研究

上代学制の研究

鎌倉時代奈良に於ける万葉研究

永積安明「古代から中世へ」の討論

国語意識史の研究——上古・中古・中世——

鎌倉室町時代——創造のコミュニケーション

II、資料研究

1、古辞書

五十音分類体辞書の発達

古辞書の研究

辞書の歴史

日本語の辞書(1)

国書寮本類聚名義抄と石山寺藏本大般若経字抄とについて

国書寮本類聚名義抄出典攷 上・中・下一

訓詁史上の国書寮本類聚名義抄

足利行述

岡田希雄

川瀬一馬

桃 裕行

永島福太郎

秋山 虔ほか

永山 勇

辻村 明

日本古典全集刊行会

再版有明書房

龍谷学報 32

講談社 複刻版

目黒書店

国語と国文学

日本文学 11

風間書房

日本文化出版協会

昭昭 15457

昭昭 12

昭 18

昭 22

昭 23

昭 37

昭 38

昭 43

国語国文 6・10

講談社

講座国語史 3

講座日本語 9

国語学 13・14 合併号

国語学 13・14 合併号

国語学 37

昭 11

昭 30

昭 46

昭 52

昭 28

昭 3

昭 34

昭 30

昭 10

国語史料としての図書寮本類聚名義抄
 語彙史研究資料としての図書寮本「類聚名義抄」観智院
 本「類聚名義抄」の和訓との比較を中心に
 類聚名義抄に就て
 類聚名義抄雑記
 類聚名義抄小論
 類聚名義抄の展開
 類聚名義抄使用者のために
 類聚名義抄解説
 類聚名義抄和訓に施されたる声符に就て
 類聚名義抄にみえる和音注について
 類聚名義抄の呉音の体系
 類聚名義抄の和音の性格
 観智院本「類聚名義抄」の正音の声調体系
 類聚名義抄の倭訓の源流について
 類聚名義抄和訓の配列
 類聚名義抄の和訓の研究法
 類聚名義抄の字訓と部首排列
 類聚名義抄における誤写の考察
 類聚名義抄における誤写の諸例
 六帖字書篇立と類聚名義抄との関係(上)
 文華風月至垂抄所載の類聚名義抄佚文

築島 裕	図書寮本類聚名義抄	昭和44
佐藤 亨	観智院本「類聚名義抄」の和訓との比較を中心に	昭和50年報1210
岡田希雄	类聚名義抄に就て	芸文13, 14
保坂三郎	类聚名義抄雑記	史学17, 2
吉田金彦	类聚名義抄小論	国語国文
吉田金彦	类聚名義抄の展開	国語国文
中田祝夫	类聚名義抄使用者のために	训点語と訓点資料6
吉田金彦	类聚名義抄解説	训点語と訓点資料6
金田一春彦	类聚名義抄和訓に施されたる声符に就て	天理図書館善本叢書30
吉田金彦	类聚名義抄にみえる和音注について	天理図書館善本叢書30
吉田金彦	类聚名義抄の呉音の体系	天理図書館善本叢書30
渡辺 修	类聚名義抄の和音の性格	天理図書館善本叢書30
渡辺 修	観智院本「類聚名義抄」の正音の声調体系	天理図書館善本叢書30
望月郁子	类聚名義抄の倭訓の源流について	天理図書館善本叢書30
築島 裕	类聚名義抄和訓の配列	天理図書館善本叢書30
今西浩子	类聚名義抄の和訓の研究法	天理図書館善本叢書30
吉田金彦	类聚名義抄の字訓と部首排列	天理図書館善本叢書30
酒井寛二	类聚名義抄における誤写の考察	天理図書館善本叢書30
西端幸雄	类聚名義抄における誤写の諸例	天理図書館善本叢書30
西端幸雄	六帖字書篇立と类聚名義抄との関係(上)	天理図書館善本叢書30
岡田希雄	文華風月至垂抄所載の类聚名義抄佚文	天理図書館善本叢書30
中田祝夫		天理図書館善本叢書30

類聚名義抄の佚文

叡山文庫蔵天海蔵蘇悉地羯羅經略疏建久点に見える類聚名義抄の逸文

観智院本類聚名義抄の参照文献

改編本系類聚名義抄の成立時期について

類聚名義抄の編纂・改編事情についての一考察

高山寺本類聚名義抄攷

観智院本類聚名義抄攷

西念寺本類聚名義抄攷

高山寺本類聚名義抄について

西念寺本・蓮成院本類聚名義抄について

蓮成院本類聚名義抄新考

三宝類字集について

三宝類字集解説

色葉字類抄攷略

前田家本色葉字類抄を見て

色葉字類抄考証第二

前田本色葉字類抄と和名類聚抄との関係について

世尊寺本字鏡解説

世尊寺本字鏡について

平岡定海

栗良裕

吉田金彦

栗島裕

望月郁子

岡田希雄

岡田希雄

岡田希雄

渡辺実

渡辺実

渡辺実

渡辺実

尾崎知光

山田考雄

岡井慎吾

佐藤喜代治

峰岸明

岡田希雄

貞苺伊徳

言語と文芸 2 昭34、1

東京大学教养学部人文学紀要 24 昭36、3

芸林 昭33、6

福田良輔教授退官記念論文集 昭45

常葉女子短大紀要 8 昭51、12

芸文 14、4、5

芸文 14、6、7

芸文 14、9、10

国語国文 別刊 2 昭26、3

鳥田教授古稀記念国文学論集 昭35

鏡国守国神社蔵本三宝類聚名義抄未刊国文学資料刊行会 昭40

ビブリア 17 昭35、10

天理図書館善本叢書 2 昭46

八木書店 昭3

西東書房 昭3

国語国文の研究 17、19 昭27、10

文芸研究 昭27、10

国語と国文学 41、10 昭39、9

貴重図書影本刊行会 昭8

国語学 23 昭30、12

世尊寺本字鏡について(補稿) — 京大本字鏡抄無名字書との関係 —

貞坊伊徳

訓点語と訓点資料 32 昭41・2

世尊寺本字鏡の成立 — 新撰字鏡と類聚名義抄との比較において —

前田富稜

本邦辞書史論叢 昭42

字鏡抄と字鏡抄

山田忠雄

三省辞書史論叢 昭42

字鏡集の研究

川瀬一馬

三省辞書史論叢 昭42

注文から見た字鏡抄・字鏡集の考察

貞坊伊徳

三省辞書史論叢 昭42

童蒙頌韻の諸本とその覚之書き

大反信一

岡山大学教育学部研究 昭50・3

世俗字類抄 — 節用文字から色葉字類抄へ —

若杉哲男

本邦辞書史論叢 昭42

節用文字の位置

石野つる子

国語と国文学 昭24・7

色葉字類抄及び世俗字類抄との比較より見たる —

関 靖

書誌学 5・2 昭10・8

身延山における新しき金沢文庫本の発見に就て

岡田希雄

国語国文学 昭10・10・12

鎌倉期の語源辞書名語記十帖に就いて 上・中・下

北野 克

国語国文学 昭48・12

名語記と語彙小論

北野 克

国語国文学 昭48・8

語源辞書と名語記のこと

奥村三雄

ことばのまじり 昭48

聚分韻略の研究

中川徳之助

風間書房 昭47・2

五山拾葉 — 名古屋市蓬左文庫蔵「聚分韻略」の書き込みについて

平他字類抄の諸本について

大反信一

岡山大学教育学部研究 昭49・1

平他字類抄の成立

大反信一

岡山大学教育学部研究 昭49・8

韻字集所載の和訓の年代について
 天理蔵「韻字集」の一古鈔本について
 平安韻字集の原型とその伝承
 諸苑韻集の部類立てと色葉字類集
 天理本「韻字集」と「詩苑韻集」
 法華經訓読と「法華經並字」
 慶袋の著者についての臆測
 慶袋引用書目録
 色葉平仄辞書色葉文字に就いて
 「伊呂葉字平它」の発見
 鸚鵡抄の草稿本と写本
 文永三年書写の六帖字書成立について
 尊円法親王の円選詞林に就いて
 尊円法親王の円選詞林と大杯本

吉田金彦	吉田金彦	吉田金彦	吉田金彦	吉田金彦	大友信一	岡田希雄	吉田幸一	岡田希雄	川瀬一馬	丸山秀夫	亀田次郎	岡田希雄	岡田希雄
国語国文 30, 5	ジブリア 17	ジブリア 19	本邦書史論叢 三卷	国語と国文学 38, 2	大坪治教授退官記念 国語史論集 表現社 文学	書誌学	書誌学	書誌学	権園 3	本邦辞書史論叢 三省堂	国史と国文	国語国文	国語国文
昭 36, 5	昭 35, 10	昭 36, 6	昭 42	昭 36, 2	昭 51, 5	昭 7, 10	昭 19, 13	昭 13, 10	昭 13, 8	昭 42	昭 4, 4	昭 13, 11	昭 15, 6

2、悉曇・訓点資料

3、和歌・歌謠・連歌

法輪顯昭の著書と弁覺法親王

藤原教長著古今集註

明恵上人資料解説

国語史上から見た明恵上人歌集

深塵抄特集寫

極樂願往生歌

天台大師和讃法語——解説と翻刻——

薩摩新田神社所蔵の鎌倉末期連歌懷紙

鎌倉末期連歌學書

鎌倉中期の田唄資料「佐渡八幡宮田遊びの歌」

4、物語

源氏物語のことばと平家物語のことば

5、隨筆

方丈記序論

方丈記の正しい() 解釈のために諸説批判
——校異・訓み・評の釈——

橋本進吉	史学雜誌	大9・3
吉沢義則	国語学4・10の研究	昭22・10
奥田 勲	明恵上人資料第一	昭46・3
小沢サト子	東京大学出版会	昭50・8
中田祝夫	王朝文学4	昭35・8
武石彰夫	国語展望23	昭44・10
大内初夫	膠写印刷	昭37・2
金子治郎	語文研究19	昭40・2
山内洋一郎	中世文芸叢書4	昭40・11
	田唄研究13	昭45・10
根来 司	言語生活296	昭51・5
永積安明	中世文学論	昭19
田中 裕	日本評論社賞	昭34

鴨長明の新研究

広本方丈記と略本方丈記

真名本「方丈記」について

統計的に見た徒然草の全貌

「徒然草」の言語観

国語史から見た徒然草

徒然草にどんなテーマがあるか
—— 語法・語彙・文章に就いて ——

日本語をめぐる感想 徒然草を讀みなおす

漫筆 徒然草と節用集

諸説一覽徒然草

徒然草と兼好

中世国語史における徒然草

兼好法師の言語観

6、記録類

高山寺本古往来断集号

中世語史料としての高山寺蔵古往来

高山寺本古往来表白集

高山寺本古往来の文献学的研究

国語史料としての高山寺本古往来

築瀨一雄

風間書房

昭37・10

細谷直樹

国語と国文学 41・12

昭39・12

武田孝

解釈 18・2

昭47・2

黒田亮

文学

昭10・6

篠原実

国語と国文学

昭16・3

松村明

解釈と鑑賞 22・12

昭32・12

岩清水尚

解釈と鑑賞 27・12

昭37・11

遠山啓

展望

昭41・6

中田祝夫

言語と文芸 70

昭45・5

市古貞次編

明治書院

昭45

白石大二

帝国地方行政学会

昭48・7

福島邦道

徒然草講座 4

昭49・11

山口明穂

徒然草講座 4
有精堂

昭49・11

川林芳規

王朝文学 12

昭40・12

築島裕

高山寺資料叢書
東京大学出版会

昭47・3

小林芳規

高山寺古往来
東京大学出版会

昭47・3

高山寺本表白集の研究

高山寺蔵書札礼について

高野山蔵 「和泉往来」について

高野山蔵 所蔵和泉往来

高野山蔵 「和泉往来」補正

高野山蔵 「和泉往来」あれこれ

和泉往来の書写について

高野山蔵 「和泉往来」の原本の形態

高野山蔵 「和泉往来」の原作者をめぐって

和泉往来の原作者「承前」

和泉往来注

金沢文庫蔵本解脫門義聴集記の中世語について

海道記新註続紹

7. 史書

増鏡の注釈数則

8. 軍記物語

軍記物の本質

戦記物語の研究

築島 裕

吉田金彦

遠藤嘉基

遠藤嘉基

遠藤嘉基

遠藤嘉基

植垣節也

植垣節也

遠藤嘉基

植垣節也

小林芳規

小林芳規

時枝誠記

山田孝雄

高山寺本古往来表白集

東大出版会

愛媛大学文学部紀要

語文研究 10

訓点語と訓点資料 17

訓点語と訓点資料 18

訓点語と訓点資料 19

訓点語と訓点資料 23

訓点語と訓点資料 23

訓点語と訓点資料 24

訓点語と訓点資料 27

訓点語と訓点資料 30

日本教科書大系 2

古往来(二)講談社

金沢文庫研究 18

国語教育 22

時枝誠記博士論文集 2

昭 29 6

昭 47 3

昭 37 10

昭 35 5

昭 36 6

昭 36 10

昭 36 11

昭 37 7

昭 37 7

昭 37 12

昭 38 9

昭 40 8

昭 42 5

昭 47 7

昭 50 2

昭 51 2

昭 29 6

昭 2 4

昭 11

昭 11

- 高良神社の覚一本平家物語に就いて
 平家物語考
 国語史料 平家物語に就きての研究 前編・後編
 鎌倉時代之部 平家物語に就きての研究(一)
 平家物語異本の研究(一)
 平家物語諸本一覽
 平家物語考
 平家物語語注解とその修正
 語学史料としての語り本平家物語
 平家物語諸本の研究
 鎌倉末期の平曲とその語り本
 平家物語の語本について
 平家物語の言語
 平家物語・徒然草
 平家物語雑考
 平家物語の基礎的研究
 平家物語の読み方覚書
 平家物語心獲
 平家物語注釈史
 平家物語の言語
 平松家本平家物語管見(一)〜(七)
 平家物語と徒然草——国語学的考察序論——

山田孝雄	神社協会雑誌	明44	1
山田孝雄	国学院雑誌	明44	1/23
山田孝雄	国語調査委員会編	明44	5/679
山田孝雄	典籍	大4	7
山田孝雄	典籍	大4	7
山田孝雄	平家物語語注につきての研究 前編 創誠社	昭43	6
加藤有雄	皇宗学報	昭5	10
亀井孝	歴史と国文学	昭15	5
高橋貞一	富山房	昭18	8
源美かゑる	文芸研究	昭28	10
高橋貞一	解釈と鑑賞	昭32	9
高木市之助	国語国文学への大(2)	昭34	6
白石大二	高木市之助全集	昭35	10
田中克己	成城文芸	昭35	12
源美かゑる	三省堂	昭37	
山下宏明	金城国文	昭38	6
市古貞次	学燈社	昭42	6
佐々木八郎	解釈と鑑賞	昭42	7
畠田直敏	解釈と鑑賞	昭42	12
高松政雄	解釈と鑑賞	昭42	12
白石大二	早稲田大学	昭43	12

平家物語の解釈とところどころ
 平家物語をめぐって
 徒然草の著作意図と言語・文体への接近
 平家物語に現れる文書について
 院政期の言語生活
 索引と語釈——平家物語を例にとりて——
 「平家物語はいかに読むべきか」に對する一試論
 平家物語の要本成立の過程に對する一考察
 表現における合作の理論に基づいて
 平家物語「戒文」の異文について
 屋代本との對比において
 太平記の辞句の白氏文集に拠るものについて
 太平記における漢楚の故事
 史記との比較文學的考察——
 太平記に引用された白居易の詩の訓詁について
 太平記と敦煌變文
 太平記と古文考經
 太平記と文選
 太平記と論語
 保元平治物語の書誌學的の一考察
 新出の平治物語繪卷殘闕
 高山寺繪本名目の初見
 兵衛記に就いて——自筆本の研究——

曾田文雄	滋賀大國文 6	昭 43	12
白石大二	軍記物とその周辺	昭 44	12
橋 豊	古典と現代 35	昭 46	10
金田一春彦	平家物語繪卷索引	昭 48	4
時枝誠記	國語研究 57	昭 33	7
時枝誠記	時枝誠記博士論文集 2	昭 33	5
時枝誠記	國語研究 8	昭 33	5
時枝誠記	時枝誠記博士論文集 2	昭 33	5
御橋徳吉	中世文學博士論文集 2	昭 35	23
増田 欣	歴史と國文學	昭 15	5
増田 欣	國文學 22	昭 34	11
増田 欣	富山大教育學部紀要	昭 43	3
増田 欣	談話文學研究	昭 43	12
増田 欣	國文學 52	昭 45	3
増田 欣	富山大教育學部紀要	昭 46	3
増田 欣	富山大教育學部紀要	昭 47	3
高木 武	國語と國文學	大 15	10
福井利吉郎	文化	昭 19	9
西田直二郎	史林 1	大 5	3

9、説話

- 説話の語文 古代説話文の研究
- 三宝絵略注
- 三宝絵詞の研究
- 東寺観智院本三宝絵詞の記載形式の成立
- 繙刻三宝絵詞東大寺切斷簡
- 繙刻三宝絵詞東大寺切斷簡補遺
- 三宝絵詞東大寺切斷簡見
——主として関戸家冊子と観智院本との比較による——
- 三宝絵詞東大寺切斷の研究
- 今昔物語集の新研究
- 今昔物語集
- 今昔物語集校注の覽之書二則
- 「打聞集」訓釈
- 「打聞集」研究と本文
- 「打聞集」と私註
- 小晴集 古本説話集をめぐって
- 十訓抄の世界
- 「雑談集」の中世語について
- 法華百座聞書抄特集号
- 国語史研究資料としての法華百座聞書抄
- 南无阿弥陀仙作善集について

春日和男	山田考雄	山田考雄	水田紀久	山田考雄	山田考雄	春日和男	春日和男	坂井衡平	峰岸 明	山田俊雄	竹岡正夫	「打聞集」を	東辻保和	永積安明	西崎 亨	川林芳規	東辻保和
桜楓社	宝文館	国語国文 18	国語国文 21	国語国文 22	国語国文 23	国語国文 27	九州大学文学部 40周年記念論文集	国文学 3	成城文芸 27	香川大学文学部 18部	研究報告 第一部	高知大学文学部 3	人文学部 26	大正文学 4	東京美術	法華百座聞書抄総索引	武蔵野学院 38
昭 50	昭 26	昭 24	昭 27	昭 28	昭 29	昭 33	昭 41	昭 33	昭 36	昭 38	昭 46	昭 53	昭 38	昭 49	昭 50	昭 38	昭 50
11	5	7	12	2	11	1	11	11	10	8	8	1	7	6	5	3	9

10、法語

法語

親鸞聖人筆跡之研究

真宗書証学の研究

親鸞思想——その史料批判——

本願寺本教行信証吉点の筆者に就いて

鎌倉時代語史料としての草稿本教行信証吉点

坂東本の史料科学的研究

三帖和讀の国語研究資料「和讀出葉しについて」

三帖和讀における左注について 古字書との關係を主として

般若抄の語学的解紙

正法眼蔵の国語学的考察

言語による表現・理解の行為について
——正法眼蔵の言語研究のため——

道元の言語表現についての考へ方

正法眼蔵の国語学的研究

日蓮文集に見えたる現代語

日蓮の遺文其他より窺はるる平家物語

西南院藏往生要集断簡

興福寺藏片仮名書往生要集鎌倉期写本 翻字

伊藤博之

辻善之助

宮崎円遵

古田武彦

吉沢義則

小林芳規

古田武彦

中川浩文

中川浩文

姫野誠二

岡田希雄

田島毓堂

嶺 光雄

田島毓堂

鈴木暢幸

後藤丹治

財津永次

鈴木一男

解釈と鑑賞 26・15

金港堂

京都永田文冒堂

富山房

龍谷大学論叢

龍谷大学文の研究

東洋大学大学院研究紀要 2

女子国文 47

龍谷大学論集 400・401

あそか書林

道元禪師研究會

国語国文論叢

松村博士教授退官記念

南山短期大学紀要 2

笠間書院

菱文 1・4

立正史学

仏教芸術 57

南都仏教 25

昭 36・12

大 9

昭 24

昭 50・5

大 13・11

昭 40・9

昭 42

昭 42・10

昭 48・3

昭 38・3

昭 16

昭 48・4

昭 49・1

昭 52

昭 13・3

昭 40・3

昭 45・10

二、文字・表記

I、総説

1、文字表記全般

- 国字問題の研究
- 日本漢字学史
- 国語史 文字篇
- 文字及び仮名遣の研究
- 音韻論と正書法
- 文字・仮名遣の史的研究を跡づけて
- 文字と表記法
- 表記法の変遷
- 日本韻学史の研究Ⅱ・Ⅲ
- 日本語の歴史
- シンポジウム曰本語4 日本語の文字
- 講座国語史2 音韻史・文字史
- 表記法の変遷
- 仮名飛遷史序説
- 片仮名の研究
- 仮名資料序
- 仮名文字遣

菊沢季生	岩波書店	昭和6
岡井慎吾	明治書院	昭和9
山田孝雄	刀江書院	昭和12
橋本進吉	橋本進吉著作集3	昭和24、12
服部四郎	岩波書店	昭和26
池上複造	国語学10	昭和27、9
山田俊雄	講座現代国語学2	昭和32
山内育男	筑摩書院法講座2	昭和34
馬淵和夫	明治書院振興会	昭和38、40
亀井 孝	平凡社	昭和38
松村 明	学生社	昭和50
中田祝夫	大修館	昭和47
小林芳規	現代文講座6	昭和52、4
春日政治	明治書院日本文学	昭和8
春日政治	国語科学講座Ⅲ	昭和9
安田 章	明治書院日本文学	昭和29
安田 章	国語国文40、2	昭和46、3

仮名資料

かひ — その成立と変遷 —

かひの用法

併用仮名の論・中世文における片仮名表記

仮名文の表記原理 試論的序説

過去におけるカタカナの用法の諸相

平かひ用法の歴史

仮名遣及仮名字体沿革史料

音図及手習詞歌考

五十音図の歴史

仮名遣の歴史

仮名遣の研究

仮名遣研究史

仮名遣概説

国語仮名遣説の発生と展開とに就て

かひづかひ研究の歴史

かひづかひの歴史

仮名づかひ

安田 章

川松 茂美

小林 芳規

佐々木 文

平井 秀文

小松 英雄

山田 俊雄

阪倉 篤義

大矢 透

大矢 透

山田 考雄

山田 考雄

三宅 武郎

木枝 啓一

石坂 正蔵

永山 勇

永山 勇

馬淵 和夫

山内 育男

山内 育男

永山 勇

国語国文 41・3

岩波書店

講座正し()日本語 3

福面教育大学紀要 20 文科 昭 47

国文学漢文学論叢 19 昭 49

言語生活 46 昭 30

言語生活 46 昭 30

国語調査委員会 昭 42

大刊本 誠書社 昭 44

宝文館 昭 44

宝文館 昭 44

国語科学講座 昭 8

明精社 昭 8

日本学講座 昭 10

改造社 昭 10

国語と国文学 昭 18

国語国文学研究史大成 昭 36

国語学論集 昭 45

佐伯権三博士 昭 47

講座国語史 2 昭 47

大館書 昭 52

山田俊雄

成城文芸 秋季号

昭 30・10

倭漢語詠集の詠句の用字

2、作品研究

西本願寺本三十六人集の字彙(6) 第十七章、第十八章

深慶抄抄現存本の表記の検討

海道記に及ぼせる四六文の影響
— 字法・対偶法を中心として

徒然草の言語 — 用字法・語・語句

平家物語の語彙・用字法

平松家本平家物語の一面 — 非標準的表記をめぐって —

法華修法百座問答抄の表記についての検証

法華修法百座問答抄の表記

今昔物語集表記法管見

真名書詠話の表記意識について
— 私聚百因縁集和朝之篇を題材として

正法眼蔵の表記法 道一・懐筆筆本における

日蓮遺文の言語 — 面様表記の語群をめぐって

黒川本日蓮聖人註画護の写音法

松本暎子

藤女大藤女短大紀要13、
昭35、昭36、昭37、昭38、昭39、昭40、昭41、昭42

小林芳規

王朝文学4
国語と国文学
昭27、昭28

松井栄一

国語と国文学
昭27、昭28

三浦和雄

徒然草講座4 有精堂
昭49、昭51

山田俊雄

日本文法講座4
昭33

山田俊雄

明治文学院
講座解釈と文法5
昭34、昭35、昭36、昭37、昭38、昭39、昭40、昭41、昭42、昭43、昭44、昭45、昭46、昭47、昭48、昭49、昭50、昭51、昭52、昭53、昭54、昭55、昭56、昭57、昭58、昭59、昭60、昭61、昭62、昭63、昭64、昭65、昭66、昭67、昭68、昭69、昭70、昭71、昭72、昭73、昭74、昭75、昭76、昭77、昭78、昭79、昭80、昭81、昭82、昭83、昭84、昭85、昭86、昭87、昭88、昭89、昭90、昭91、昭92、昭93、昭94、昭95、昭96、昭97、昭98、昭99、昭100

高松政男

国語国文37、6
昭43、昭46

小林芳規

王朝文学8
昭38、昭39、昭40、昭41、昭42、昭43、昭44、昭45、昭46、昭47、昭48、昭49、昭50、昭51、昭52、昭53、昭54、昭55、昭56、昭57、昭58、昭59、昭60、昭61、昭62、昭63、昭64、昭65、昭66、昭67、昭68、昭69、昭70、昭71、昭72、昭73、昭74、昭75、昭76、昭77、昭78、昭79、昭80、昭81、昭82、昭83、昭84、昭85、昭86、昭87、昭88、昭89、昭90、昭91、昭92、昭93、昭94、昭95、昭96、昭97、昭98、昭99、昭100

福地昭助

王朝文学8
昭38、昭39、昭40、昭41、昭42、昭43、昭44、昭45、昭46、昭47、昭48、昭49、昭50、昭51、昭52、昭53、昭54、昭55、昭56、昭57、昭58、昭59、昭60、昭61、昭62、昭63、昭64、昭65、昭66、昭67、昭68、昭69、昭70、昭71、昭72、昭73、昭74、昭75、昭76、昭77、昭78、昭79、昭80、昭81、昭82、昭83、昭84、昭85、昭86、昭87、昭88、昭89、昭90、昭91、昭92、昭93、昭94、昭95、昭96、昭97、昭98、昭99、昭100

山口佳紀

国語と国文学43、12
昭41、昭42

南里みち子

語文研究36
昭49、昭50

田真毓堂

東海学園国語国文2
昭46、昭47、昭48、昭49、昭50、昭51、昭52、昭53、昭54、昭55、昭56、昭57、昭58、昭59、昭60、昭61、昭62、昭63、昭64、昭65、昭66、昭67、昭68、昭69、昭70、昭71、昭72、昭73、昭74、昭75、昭76、昭77、昭78、昭79、昭80、昭81、昭82、昭83、昭84、昭85、昭86、昭87、昭88、昭89、昭90、昭91、昭92、昭93、昭94、昭95、昭96、昭97、昭98、昭99、昭100

佐田智明

北九州大学文学部紀要1
昭42、昭43

山田忠雄

国語学84
昭46、昭47、昭48、昭49、昭50、昭51、昭52、昭53、昭54、昭55、昭56、昭57、昭58、昭59、昭60、昭61、昭62、昭63、昭64、昭65、昭66、昭67、昭68、昭69、昭70、昭71、昭72、昭73、昭74、昭75、昭76、昭77、昭78、昭79、昭80、昭81、昭82、昭83、昭84、昭85、昭86、昭87、昭88、昭89、昭90、昭91、昭92、昭93、昭94、昭95、昭96、昭97、昭98、昭99、昭100

II、各説

1、漢字

古写本に現われたる漢字の研究
— 院政鎌倉期を中心として —
しほといふ文字は何れの偏にか侍るらん

小林範子

文学論叢33
昭41、昭42

山田俊雄

国語と国文学
昭41、昭42

部首名の変遷から見た二・三の問題

句字考

定家の用字と注釈意識——漢字の場合

「又」と「まだ」・「事」と「束」と

「おのおの」用字考
——平安時代の記録資料を対象として——

「吾妻鏡」の漢字——中世庶民階級の用字意識をさぐりて

「吾妻鏡」に見え「歳」・「所」・「坪」・「両」の使い分け
として——「持統」・「助詞」に用いられた「歳」・「字」を中心

吾妻鏡に見える「関係（比較）」を表わすし
訓詞とその用字

大福光舟本方丈記に於ける漢字使用について

大福光舟本方丈記に於ける漢字表記

「徒然草」漢字の用字研究
——漢字の使用を中心に——

高山寺蔵古往来における異体字について

高山寺本古往来における漢字の用法上の性格
——坂本知の有無を手懸りとする考察

高山寺蔵古往来における漢字頻出度

高山寺本古往来における漢字の用法について

高野山蔵和泉往来の漢字の用法について
——高野山蔵高山寺本古往来と比較して——

真字熱田本平家物語の文字史的研考序

酒井憲二	国語学 79	昭 44	12
川松英雄	佐伯梅友博士 国語学論集	昭 51	6
清水義秋	相模工業大学紀要 7	昭 48	3
川笠原一	国語国文学 8	昭 48	6
峰岸 明	文学論叢 46	昭 46	6
縣 栄一	国文学攷 11	昭 27	8
青木 孝	青山学院女子短期大学 紀要 28	昭 49	
青木 孝	佐伯梅友博士 国語学論集	昭 51	12
青木 伶子	国語と国文学 43	昭 41	1
青木 伶子	成蹊国文 2	昭 44	3
佐藤武義	宮城教育大学紀要 4	昭 45	3
小林寛子	王朝文学 12	昭 40	11
小林芳規	国文学攷 57	昭 46	11
沢 孝	王朝文学 12	昭 40	11
峰岸 明	高山寺本古往来表白集	昭 47	3
来田 隆	32 東京大学出版会 1 真字大学文学部紀要	昭 48	1
山田俊雄	成成文芸 7	昭 31	4

熱田本平家物語の漢字とついでに用法の一側面(一)見た
 熱田本平家物語の漢字とついでに用法の一側面(二)見た
 熱田本平家物語の漢字とついでに用法の一側面(三)見た
 熱田本平家物語の漢字とついでに用法の一側面(四)見た
 音象徴の語の漢字表記を中心とした覚え書
 平家物語の漢字の字数について
 平松家本平家物語にみる宛字・誤字・脱字・衍字
 漢字によつて語を表記する工夫の一例
 太平記を主としたる室町時代の漢字使用
 今昔物語の用字法——「目出し」と「微妙し」
 今昔物語兼における漢字の用法に関する一試論(1)(2)
 「打聞集」の宛字——「今昔物語集」との比較
 法華修法百座聞書抄の表記 送り仮名・宛字
 法華修法百座聞書抄の表記 振仮名・漢字表記の語
 正法眼蔵の人名表記について(1)
 正法眼蔵の人名表記について(2)
 正法眼蔵の人名表記について(3)
 正法眼蔵の人名表記について(4)

山田俊雄	成城文芸 10・12	昭昭 3232
山田俊雄	成城文芸 18	昭昭 34・5
山田俊雄	成城文芸 28	昭昭 36・12
山田俊雄	成城大学創立三十周年記念論文集	昭昭 40・3
松本淳子	学習院大学国語国文学会誌 8	昭昭 40・12
山内潤三	大谷女子大 国文 5	昭昭 50・5
山田俊雄	成城文芸 77	昭昭 51・6
縣 栄一	文学探求	昭昭 24・8
佐藤武義	宮城教育大学 国語国文 2	昭昭 45・10
峰岸 明	国語学 84・85	昭昭 4646・63
田中武久	王朝文学 9	昭昭 38・10
神作光一	王朝文学 8	昭昭 38・5
川林芳規	王朝文学 8	昭昭 38・5
田島毓堂	東海学園女短大紀要 6	昭昭 44・8
田島毓堂	東海学園女短大紀要 7	昭昭 45・12
田島毓堂	東海学園女短大紀要 8	昭昭 48・6

2、仮名

草仮名による字音表記

純・三宝絵 東大并切喰見し——字音表記について

梵清本 正法眼蔵に見える唇音表記について

漢字音に於ける促音の表示法

高山寺蔵古往来の三内韻尾の表記

高山寺蔵古往来の三内入声音の表記

仮名文における拗音仮名表記の成立

拗音について 仮名交り文
時と本文と傍訓の表記の違ひから知り得る事

訓点における拗音表記の沿革

極樂願往生歌の拗音の表記——漢字音考察の一り——

高山寺蔵古往来の拗音の表記

定家白筆本における拗音表記 奥入を中心として

藤原教長「古今和歌集」注の拗音仮名表記

「明恵上人歌集」の拗音仮名表記

法華修法百座願書抄の表記
本文における唇音二種（唇内と舌内）・三内入声の表記

親鸞筆「西方指南抄」の拗音表記

高山寺蔵古往来の音便の表記

春日和男

春日和男

水野弥穂子

沼本克明

市川靖子

高丸輝子

近野虔徳

高羽五郎

川林芳規

高羽五郎

坂詰刀治

小笠原一

高羽五郎

高羽五郎

大久保強

高羽五郎

市川まち子

文学研究 58

国語国文 29, 4

26 駒沢大学文学部研究紀要 昭43, 3

国文学攷 69

王朝文学 12

王朝文学 12

語文研究 26

国語と国文学 38, 8

王朝文学 9

国語学 48

王朝文学 12

国学院雜誌 77, 10

金沢大学法文学部論集 12 昭40, 3

金沢大学法文学部論集 12 昭40, 3

王朝文学 8

金沢大学法文学部論集 11 昭39, 3

王朝文学 12

法華修法百座聞書抄の音便の表記

神宮文庫本平家物語の濁音表記について
落葉集本篇との比較を中心にて

宛字の一面——擬声語の表記——

表記史上の二問題——捨てがなの場合——

中近世における平仮名の字体——藤原定家の平仮名——

前田家本中外抄の仮名表記について

愚管抄の力ナへ仮名について

はか／＼しからず候ともへ字治捨邊(第川考)を
はか／＼しからず候ともへ字治捨邊(第川考)を
考ふる

足利本假名書法華經の用字法について
はか／＼しからず候ともへ字治捨邊(第川考)を
考ふる

3、仮名遣

仮名遣の起源について

三巻本^可色葉字類抄^可におけるヨヲレコオシの分布とその分析

無窮公本大般若経音義のオ・ヲの仮名遣について

游門記承徳点本の仮名遣をめぐって

極楽願往生歌しの仮名文字遣

定家の仮名遣

下官兼と親行の仮名遣

定家 はずか(いと沢沖がはずか)

藤原定家の仮名遣について

横田喜代恵

斎藤達雄

高松政雄

酒井憲二

井浦美幸

峰岸 明

塩見 薫

外山映次

林義雄

王朝文学 8 昭 38 5

皇学館論叢 7 6 昭 49 12

岐阜大学教育学部研究 昭 44 12

報文(日本文学) 昭 43 12

日本文学(東京女子大学) 昭 46 10

未定稿 9 昭 36 9

史林 43 2 昭 35 1

在野記念博士国語学論集 昭 51 12

二年松学舎大学創立百周年記念論集 昭 52 10

大野 晋

小松英雄

薬島 裕

川林芳規

山上 泉

吉沢義則

石坂正蔵

馬淵和夫

大野 晋

国語と国文学 27 12 昭 25 12

国語学 69 昭 42 6

訓読語と訓点資料 54 昭 49 5

国文学 49 昭 44 3

国漢 昭 13 12

国語学 5 昭 21 5

国語学 5 昭 19 12

国語学 72 昭 43 3

定家の區別した仮名について

定家仮名遣の成立について

藤原定家の文字づかひ「を」「お」の中和を中心として

定家の「仮名遣」について

定家自筆本のかなの用法「茂」の場合

定家がなづかひの再評価

梁塵秘抄所収語の仮名遣・清濁二三

「ゑ・ゑ」の仮名遣——高山寺藏古往来辨集号——

「ハ行転呼音」の仮名遣——高山寺藏古往来辨集号——

「土佐」記「転写本」の仮名遣について

今昔物語集におけるナリの表記について

法華經法百座聞書抄の表記
ハ行・転呼音をの仮名遣

大福光舟本「方丈記」の「カナツカイ」

親鸞上人の写語法

日蓮上人遺文の仮名遣——その注意すべき二つの事象について——

4、補助符号 (→↓三一三頁へ続く)

本朝音符考

音符

濁点の成立について

濁点の起源

石垣正蔵

国語学 46

昭36 1 9

追野虔徳

語文研究 27

昭44 1 6

水松英雄

言語生活 272

昭49 1 5

追野虔徳

語文研究 37

昭49 1 8

小笠原一

学芸国語国文学 12

昭51 1 1

遠藤和夫

国文学ノト 14

昭51 1 3

小林芳規

王朝文学 4

昭35 1 8

増田育子

王朝文学 12

昭40 1 12

細谷則子

王朝文学 12

昭40 1 12

桜井茂治

国学院雑誌 65 1 5

昭39 1 5

木之下正雄

解釈 3 1 8

昭32 1 8

谷崎一美

王朝文学 8

昭38 1 5

祐川紀三

力ナノヒカリ 483

昭37 1 9

サワタカカズ

意谷大学論叢

昭21 1 10

吉沢義則

国語国文学の研究

昭17 1 3

森田武

国文学 9

昭17 1 3

吉沢義則

国語国文学の研究

昭2 1 2

橋本進吉

岩波書店 仮名遣の研究

昭24 1 12

屋加宗一

岩波書店 国文学

昭17 1 12

築島裕

東京大学教養学部人文

昭39 1 4

三 音韻

I 総説

国語音韻の変遷

国語音韻変遷の趨勢

国語の音節構造と母音の特性

国語音韻史の研究

国語音韻史の研究 増補新版

国語音韻の研究

平安時代末期の母韻

日本韻学史の研究Ⅱ

日本韻学史の研究Ⅲ

平安朝から室町までの国語の音声

国語音韻史

国語音韻論

講座国語史之 音韻史・文字史

中世片仮名文の国語史的的研究

II 国語音

1 作品研究

橋本進吉

菊沢孝生

橋本進吉

有坂秀世

有坂秀世

橋本進吉

馬淵和夫

馬淵和夫

馬淵和夫

橋本進吉

橋本進吉

馬淵和夫

中田祝夫編

小林芳規

国語と国文学

解釈と鑑賞

国語と国文学

明世堂書店

三省堂

岩波書店

国語3・2

日本学術振興会

日本学術振興会

橋本進吉著作集6

国語音韻史1講義集1

岩波書店

著作集6

岩波書店

空閑書院

大修館

岩波書店

弘島大学文学部紀要

特輯号3

昭13・10

昭14・7

昭17・2

昭19

昭32

昭25

昭29・7

昭38

昭40

昭41・1

昭41・1

昭46

昭47

昭46・3

作品と当時の発音 平家物語・徒然草

徒然草の音韻

平曲の音声(上)・(下)

音韻資料としての真言声明

浄土真宗伝承音の「ワリ仮名」について

浄土真宗伝承音覚書

浄土真宗伝承音研究拾遺

浄土真宗伝承音覚書(2)

浄土真宗伝承音の研究
——室町時代音韻資料として——

高山寺本古住来の音韻

声明の「読みくせ」——国語音韻史の資料——

2. 音声・音韻全般

「核音組織から「五音」音組織への過程に関する
実証的研究

和歌・漢詩唱和の際における韻の問題

重箱詠・湯桶詠について(高山寺蔵古往来)

字音三題——「注」、「通」、「相」——

日本漢字音における規範と事実

——住掛畫汰・住掛守の字音を繞って——

白石大二 解釈と鑑賞 25 | 10 昭 35 | 9

村上雅考 徒然草講座 4 有精堂 昭 44 | 11

金田一春彦 音声学会会報 昭 34 | 10

金田一春彦 国語学 43 昭 36 | 2

福永静哉 女子大国文 20 昭 36 | 2

福永静哉 女子大国文 23 昭 36 | 10

福永静哉 国文学論叢 10 昭 37 | 12

福永静哉 女子大国文 27 昭 37 | 12

福永静哉 風間書房 昭 38 | 10

沼本克明 高山寺本古往来・表白集 昭 47 | 3

寛五百里 研究報告(岐阜大) 昭 47 | 3

柿本吾郎 日本歌謡研究 3 昭 41 | 12

新倉 尚 中世文芸 37 昭 42 | 3

島原泰雄 王朝文学 12 昭 40 | 11

高松政雄 訓点語と訓点資料 49 昭 48 | 1

岡本 勲 国語 国文 37 | 7 昭 43 | 7

3 拗音

拗音
イウからエウへの転化の問題
見ッうと見ョうとの交替
すずめしうしう

洪田 敦	国語国文	昭39	5
佐藤喜代治	国語学 研究3	昭38	6
福島邦道	佐伯梅友博士古稀記念 国語学論集 表規社	昭4	
亀井 孝	成蹊国文3	昭45	3

4 音便

国語音韻史に關して——三内鼻音の混乱期
促音沿革考
促音と拗音 上・下
拗音と濁音との相関性の問題
音便——拗音便とウ音便との交替
拗音ノの性格——表記と音価の問題——
擬ゆる音・詰める音

八行動詞の音便形の沿革

お馬ひんひん
なんだのゆくえ
ツンザクとヒツサグとの語源について

遠藤嘉基	文学	昭14	3
次田 敦	国語国文	昭21	1
次田 敦	人文研究——	昭25	1
次田 敦	国語国文	昭27	4
奥村三雄	国語国文	昭29	3
金田一春彦	国語学 23	昭30	12
金田(中田) 祝夫	国語と国文学 東本語音韻の研究	昭42	6
亀井 孝	国語と国文学 総論篇の講談社学的研究	昭29	7
亀井 孝	国語国文 研究 15	昭35	2
亀井 孝	国語学 41 輯	昭35	8
築島 裕	国語学 54	昭38	9

論語選式(口述点) 和音語彙から

徒然草の音便

長円寺本正法眼蔵随聞記の音便

まろうど考——平家正節における「ヒト」「ビト」の音便形の最後のモイラの清濁について

「鈴鹿本今昔物語集」における「ム」表記の音便

5 長音

長音 上・下

吉田金彦

田島毓堂

近藤洋子

近藤政美

深野浩史

かがみ7

金城国文42

東海学園国語国文5

国語国文学2
(名古屋大学)

説話3

三〇

昭37 1 3

昭44 1 2

昭48 1 5

昭34 1 6

昭46 1 5

浜田 敦

人文研究

昭6 26 1 5

6 連声・連濁

連濁と連声

連声と読み癖

連声現象の体系性をめぐる疑問

平安院政時代における和語の連濁について
——總智院本・名義抄における

浜田 敦

福島邦道

松本 宙

梶井茂治

国語国文

国語学52

国語学研究10

国語国文41 1 6

昭35 1 10

昭38 1 3

昭45 1 12

昭47 1 6

7 母音交替

「かぞふ」と「かずふ」

福島邦道

国語国文29 1 3

昭35 1 3

8 子音

波行子音の変遷について

助詞「は」の発音について
—— 声明「の」伝承音とその音韻史的解釈
マ行音バ行音交替現象の傾向
字(「アザ」)について——「今昔物語集」を中心に——

9 濁音

去声点と濁音
—— 虎政期の濁音の性格を知る手がかりとして
回帰と類推——マ行の濁音仮名とその背景——

III 漢字音

1 作品研究

漢籍訓点資料記載の字音
醍醐寺本遊仙窟の漢字音
長承本蒙求字音点(一)(二)(三)

圖書寮本文鏡秘府論字音点

橋本進吉

師倉先生 論文集 研究社
記念 国語音韻の研究 昭3
岩波書店 昭25

枅井茂治

国語 国文学41 8
国語学 研究5 昭39 8
相原司郎 語学文学7 昭44 3

松本 宙

国語学 研究5 昭40 8

相原司郎

語学文学7 昭44 3

遠藤邦基

国語 国文学43 3 昭49 3

遠藤邦基

岐阜大研究報告
人文科学21

沼本克明

国語 国文学38 8

高松政雄

訓点語と訓点資料46 昭47 1

寮島 裕

訓点語と訓点資料10 昭33 1

柏谷嘉弘

訓点語と訓点資料30 昭40 8

慈光寺藏大般若經の字音点について

高山寺藏胎藏界自行次第字音点

和泉住来字音十則

韻鏡頼勢伝の研究

磨光韻鏡の成立——法慧の資料を通じ——

変体漢文訓詁に於ける字音語の性格

九条本法華經音の反切の成立過程

又 音声・音韻全般

諷經の唐音に反映した鎌倉時代の音韻状態

漢字音史上の一断面 中古字音より鎌倉唐音へ

鎌倉期における唐音——聚分韻略を通して見る——

唐末上声全濁字の去声化を通じて見たる日本漢音の体系について

金沢文庫本正法眼蔵の中の唐音について

中世呉音研究序説

呉音

「日本呉音」に就いて

正倉院御蔵旧鈔本蒙求の漢音

松尾 拾

築島 裕

福島邦道

馬淵和夫

缺方建一郎

沼本克明

沼本克明

有坂考世

高松政雄

高松政雄

沼本克明

嶺 光雄

高松政雄

高松政雄

河野六郎

有坂秀世

国語学 3 昭 24 . 11

訓点語と訓点資料 36 昭 42 . 11

訓点語と訓点資料 28 昭 39 . 4

国語学 7 昭 26 . 9

国語 昭 27 . 4

信州大学人文学部 昭 48 . 2

国語と国文学 54 . 7 昭 52 . 7

国語研究 2 の研究 昭 14 . 4

国語新報 三省堂 昭 32

岐阜大学教育学部 昭 47 . 12

研究報告 2 (人文部)

国語と国文学 49 . 7 昭 47 . 7

国語と国文学 昭 48 . 2

日本文学研究 昭 27 . 12

国語国文 42 . 9 409号 昭 48 . 9

岐阜大学教育学部報告 23 (人文部) 昭 49 . 2

言語学論叢 15 昭 51 . 3

橋本博士還暦記念 昭 19

国語学論集 岩波書店

平安末期における漢音の一断面
漢音・吳音の分類

小松英雄
坂詰力治

国語と国文学 12
王朝文学 12

昭 51 1 2
昭 40 1 12

3 拗音

音韻史上より見たる「カ」「ク」の混同

新村 出

国学院雑誌

明 39 1 11

蘇秦合口の字音

高松政雄

新村出全集 1 筑摩書房 昭 5 46 12

昭 51 1 2

「狂」の字音 陽韻合口をめぐって

高松政雄

国語国文学 45 1 6

昭 51 1 6

4 入声音

古内入声韻尾と促音との交渉

小松英雄

言語と文芸 2

昭 34 1 1

惠信尼「仮名字經」の字音——特に古内入声音について——

片岡 了

国語学 58

昭 39 1 9

吳音のかな表記における古内および喉内入声音のかわりけ

林 史典

千葉大教育学部研究紀要 昭 49 1 12

昭 49 1 12

平曲における入声ツの取扱ひ方

岩淵悦太郎

皇国文学 4

昭 17 1 1

借音仮名としての喉内入声音

三吉 陽

国語国文

昭 27 1 6

日本字音における唇内入声韻尾の促音化と古内入声音への合流過程

小松英雄

国語学 55

昭 31 1 6

日本漢字音に於ける唇内入声字の促音化とフ声化

沼本克明

国語学 99

昭 49 1 12

5 音便・韻尾

喉内韻尾の国語化
韻尾国語化について

奥村三雄
奥村三雄

国語国文
説林

昭25 | 12
昭26 | 1

6 連濁

字音の連濁について

同一經典に於ける字音連濁現象の交遷

院政・鎌倉時代における字音の連濁について

日本漢字音に於ける連濁と声調との關係

奥村三雄
福永静哉
小林芳規
沼本克明

国語国文
女子大国文13
29 | 1
11
広島大学文学部紀要
日本・東洋31 | 1

昭27 | 6
昭24 | 5
昭45 | 3
昭47 | 1

漢音の連濁

「變敬」の中世におけるよみ方——清音の「アイキヤウ」の提唱

神田本白氏文集の字音点——清濁の區別を中心として

沼本克明
大久保 強
宇都宮陸男

王朝文学5
訓点語と訓点資料41

昭36 | 2
昭45 | 6

7 母音(文替)

四方ひろ石

方言の合音用法

日本漢字音に於ける止接の所謂長音表記に就て——韻鏡の關合・開合の分類基準との關連に於て——

韻鏡内転第十二關合の意味するもの——日本漢字音における虞韻長音表記を統りて

福島邦道
池上複造
岡村 勲
岡村 勲

国語学46
鳥田教授古稀記念
国文学論集
国語国文38 | 8
国語国文39 | 6

昭36 | 5
昭44 | 8

8 子音

日本漢音に於いて侯韻明母が「ホ」と表記される事について 沼本克明

国語国文 40 1 2

昭 46 1 2

9. 声調

親鸞聖人真蹟三帖和讃国宝本の漢字圈発について

寒河江実

語文 21

昭 40 1 9

IV アクセント

1. 国語音

(1) 総説

国語アクセント論叢

法政大学出版局

昭 26 1 12

国語アクセント史の研究が何に役立つか

寺川喜四男
金田一春彦
稲垣正幸

金田一博士古稀記念
言語民族論叢

昭 28

古代アクセントから近代アクセントへ

金田一春彦

国語学 22

昭 30 1 9

国語アクセントの時代的変遷

金田一春彦

国語と国文学 37 1 10

昭 35 1 10

アクセント体系変化の時期について 上・下
「名義抄」から「補忘記」へ

桜井茂治

国語と国文学

昭 37 1 19

日本語調史論考

小松英雄

風間書房

昭 46

国語アクセントの史的研究・原理と方法

金田一春彦

痛書房

昭 49 1 3

古代国語アクセント史論考

桜井茂治

桜楓社

昭 50 1 9

(ii) 資料研究

漢籍における声点附和訓の性格
 三卷本「色葉字類抄」所載のアクセント
 形容詞・サ変動詞について
 前田本色葉字類抄と和名類聚抄との関係について
 神宮文庫本「色葉字類抄」管見
 声点表記を中心として
 声点の分布とその機能(1)
 前田家蔵三卷本「色葉字類抄」における差声訓の
 分布と分析
 声点の分布とその機能(2)
 声点の分布とその機能(II)
 部分差声訓の分布とその分析
 語調資料としての類聚名義抄
 函書寮本および観智院本にみえる和訓の声点の均
 質性の検討
 類聚名義抄和訓に施されたる声符に就て
 大東急文庫蔵「大般若経音義」所載のアクセント
 大東急文庫蔵大般若経音義にみえる和訓の声点
 和名類聚抄にほどこされた声点について
 俱舍論音義和訓のアクセント
 『仙原抄』跋文の語調表示の方法とその発想
 一 覺之書

梶井茂治

梶楓社

昭51 6

二六六

小林芳規

国語学 66

昭41 9

梶井茂治

国学院雜誌 60 4

昭41 4

峰岸 明

国語と国文学 41 10

昭39 10

福永静哉

女子国文学 35

昭39 10

小松英雄

国語国文学 35 7

昭41 7

小松英雄

国語国文学 31 2

昭43 2

小松英雄

国語国文学 36 3

昭42 3

小松英雄

東京教育大文学部紀要 9

昭39

金田一春彦

国語学論集

昭19

梶井茂治

国語研究 10

昭35

小松英雄

かがみ 5

昭36

馬淵和夫

国語と国文学 41 10

昭39 10

奥村三雄

岐阜大研究紀要 6

昭48 3

望月郁子

常葉女子短期大学紀要 5

昭48 3

- 古代のアクセント註記からみた古今和歌集解釈の諸問題
 顕昭の声点本について
 古今和歌集声点本の研究 資料編
 浄辨本拾遺和歌集所載のアクセントに就いて
 古式のアクセント符号を振りたる百人一首
 「西本願寺本万葉集」所載のアクセント表記について(1)(2)
 四座講式の研究
 邦楽古典の施律による国語アクセント史の研究各論
 「四座講式」所載のアクセントの法則など
 「四座講式」の施律による国語アクセントの研究各論(1)
 邦楽古典の施律による国語アクセントの研究各論(1)
 音韻史資料としての真言声明
 アクセント資料としての「声明」を中心として
 真言宗「声明」の墨符の采譜とアクセント
 声明史料「聖宝院理趣経」について
 助詞「は」の発音について
 「声明」の伝承音とそとの音韻史的解釈
 「佛教遺経」の施律に反映した国語アクセント
 邦楽の施律と歌謡のアクセント
 前田流平曲とメロデーについて
 平曲曲節様譜記
 鎌倉時代音楽小論 — 平曲音楽への端書 —

秋枝一枝	国文学研究12	昭30
秋枝一枝	国文学研究25	昭37-3
秋枝一枝	秋倉書房	昭47-3
栗島裕	国語アクセント論叢	昭26-12
井上奥本	音声の研究II	昭3
桜井茂治	国学院雑誌68-7-8	昭42-7
金田一春彦	三省堂	昭39-8
桜井茂治	国学院雑誌61-4	昭35-4
金田一春彦	国語教育5-9 三省堂	昭38-10
金田一春彦	国語学43	昭36-2
桜井茂治	国語学44-45	昭36-63
桜井茂治	国語学51	昭37-12
奥村三雄	国語国文32-2	昭37-2
桜井茂治	国語と国文学41-8	昭39-8
桜井茂治	国語学27	昭31-12
金田一春彦	「田辺尚雄氏還暦記念 「東亞音楽論叢」	昭19-8
金田一春彦	日本文学研究	昭27-3
藤井制心	日本文学研究	昭27-3
藤井制心	愛知大学文学論叢9	昭29-8

中世平曲の曲節とその詞章

平曲 — その詞章の大展開と曲節 —

平曲の音楽 — 奥儀篇 (膳本)

平曲の音楽 — 研究篇 (膳本)

平曲の音楽 — 入門篇 (膳本)

平曲の音声 (上)・(下)

平曲謠本に反映したアクセント — 京大本平曲正節を中心として —

アクセント史料としてみた平曲謠本

平曲謠本と付属語のアクセント

平家正節に見える平曲の大旋律型の種類

高野山親王院蔵「恵心僧都義説」付載「仮名の声」について

金沢文庫蔵本解脫門義聴集記所載の国語アクセントについて

補忘記の研究

補忘記の研究 統紹

アクセント体系変化の時期について (上・下)

「仮名抄」から「補忘記」へ

「段階」アクセントはありえなから

渥美かをる

渥美かをる

金田一春彦

館山甲午

金田一春彦

金田一春彦

奥村三雄

奥村三雄

奥村三雄

金田一春彦

馬淵和夫

築島 裕

服部四郎

金田一春彦

桜井茂治

山口幸洋

紀要(愛知県立女短大) 昭29 4

15 21 22 19 昭32 19

解釈と鑑賞 昭30 4

平家物語講座2(創元社) 昭32 4

音声学会会報 99・101 昭34 124

国語と国文学 昭45 10

文学研究 69(九大) 昭47 12

語文研究 39・40 昭50 6

文学研究 72(九大) 昭50 12

日本音楽とその周辺 昭48 12

国語学 40 昭35 3

金沢文庫研究 16の9 昭45 9

日本語のアクセント 昭17

日本語のアクセント 昭17

国語と国文学 39・9・11 昭37

国語研究 18 昭39

平家アクセントと補忘記アクセント

音韻史資料としての「補忘記」(上)・(F)

補忘記(觀心)元禄版の解説

補忘記(觀心)元禄版の解説

保延四年点「文鏡秘府論」の声点表記について

圖書寮本文鏡秘府論の字音声点

楊守敬旧藏本芥門記に附されたる声点について

延慶本平家物語にみける声点

古代のアクセント符号を振りたる日本書紀

日本書紀古写本の阿克セントと古今訓点抄の阿克セントに
ついて(山・F)

「日本書紀」古写本所載の阿克セント
— 平家輕の声点の確認と整理 —

iii) 各論

東西両阿克セントのちがいができるまで

東西阿克セント分誦の時期

類聚名義抄の阿克セントと諸方言阿克セントとの対応関係

近畿阿克セントにおける上下型名詞の甲類・乙類の別の発
生に関する一考察

近畿阿克セントの発生の再検討
— 声明の旋律に反映した阿克セントを資料として —

川上 恭

国語国文并 1・2

昭 40

梶井茂治

国語国文 36 1・3・4

昭 42

平山輝男

白帝社

昭 37

平山輝男

白帝社

昭 37

梶井茂治

国学院雜誌 73 1・6

昭 47 1・6

柏谷嘉弘

国語学 61

昭 40

猿田知之

立教大学日本文学 30

昭 48 1・6

高松政雄

岐阜大学教育学部
研究報告 20 (人文科学)

昭 46 1・12

井上奥本

音声の研究 II

昭 3

岡田尚子

女子大文学 8・9

昭 31・32

梶井茂治

立教大学日本文学 13

昭 39

金田一春彦

文学 22 1・8

昭 29

奥村三雄

国語国文 24 1・12

昭 30

大原孝道

日本語の阿克セント

昭 17

大原孝道

国語阿克セント論叢

昭 26

梶井茂治

国語研究 5

昭 31

名義抄時代の京都方言に於ける二字四段活用動詞の
アクセント

南不二男

国語学 27

昭 31

中世京都方言の音節構造
——そのシラビーム的性格について——

桜井茂治

文学語学 46

昭 42

中世日本語の音節構造の諸問題 —— 撥音・長音・ワルなど ——

桜井茂治

国語国文 42-3

昭 48-3

平安末期畿内方言の音調体系

小松英雄

国語学 39・40

昭 34

再構と分析 —— I・II ——
A Resister-Tone Language with contour overlap としての

圖書寮本類聚名義抄にみえる特殊な注音方式とその性格(上)

小松英雄

訓点語と訓点資料 10

昭 33-10

和訓に施された平声輕の声点 —— 平安期末京都方言における
下降調音節の確認 ——

小松英雄

国語学 29
声調史論考

昭 32-6

平声輕の点について

金田一春彦

国語学 41

昭 35

二音節名詞アクセント類別について
—— 第四類と第五類の別に関する一考察 ——

桜井茂治

文学語学 40

昭 41

いわゆる「平安アクセント」の五類の別について ——

桜井茂治

国語国文 35-1

昭 41

平安末期における「上東」型名詞の存否について

佐々木隆

文学

昭 48-8

可類聚名義抄四種声点付和訓某成ら付論
声点の認定をめぐる二三の問題を中心にして ——

望月郁子

空閑書院

昭 49-3

「上東型名詞」の存否をめぐって

桜井茂治

文学

昭 49-2

上東型名詞存在の理論的根拠

小松英雄

文学

昭 49-5

上東型名詞存否論の帰結

小松英雄

国語学 109

昭 52-6

去声点と蜀点

遠藤邦基

国語国文

昭 43-3

—— 院政期の濁音の性格を知り手がかりとして ——

望月郁子

常葉女子短大紀要 6

昭 43-3

上昇調一音節の助詞の平調化
—— 助詞二の語調の再検討 ——

語義と語調と語源との関係
——去声の体言とその派生語における——

第一音節の音調一致の法則に対する一つの疑い
——語幹去声の形容詞の場合を中心にして——

去声点ではないとする語彙について
——本誌90集所載の望月郁子氏の論文を読んで——

声点の声調認定の方法
——名類聚名義抄の第二類動詞終止形語末のかげの声点を
中心にして——

古代日本語の形容詞の構造

複合名詞のアクセント法則——五音節語を資料として——

いわゆる複合動詞の変遷

平安・院政時代の「複合動詞」
——関一雄氏の論文を讀んで——

2. 漢字音

字音の新濁について

音節とアクセント——吳音声調の国語化——

吳音の声調体系

「出合(イ、デアイ)考——アクセント史的考察——

漢語アクセントの国語化
——主として「出合(イ、デアイ)以前について——

漢語のアクセント

吳音声調の一性格

いわゆる漢吳音の声調について

望月郁子 常葉女子短大紀要4 昭47-3

望月郁子 国語学70 昭47-9

金田一春彦 国語学93 昭48-6

望月郁子 国語学102 昭50-9

桜井茂治 国語国文 昭37-8

桜井茂治 国語学33 昭35-1

関一雄 国語と国文学37-2 昭35-1

桜井茂治 国語と国文学37-7 昭35-1

奥村三雄 国語国文21-5 昭27

奥村三雄 国語国文22-11 昭28

奥村三雄 訓点語と訓点資料8 昭32

桜井茂治 国語研究7 昭32

桜井茂治 国学院雑誌60-9 昭34

奥村三雄 国語国文30-1 昭36

奥村三雄 訓点語と訓点資料18 昭36-10

奥村三雄 国語国文31-1 昭37

漢語のアクセント―アクセントから語彙論へ―

漢語アクセントの二性格

漢語アクセント小考―三卷本色葉字類抄を中心として

毘富羅声の機能

兵音の声調体系について

卷曇藏所伝の四声について

真字本熟田本平家物語の漢字に附けられた声点の価値

生ズルと称スル―連濁の要因について―

アクセント史資料としての「補志記」(1) (2)

醍醐寺藏法華經釈文の声調体系について

仁和寺藏重文孔雀經字音点
―漢音声調史料としての位置付け

奥村三雄

奥村三雄

奥村三雄

沼本克明

沼本克明

有坂考世

山田俊雄

奥村三雄

桜井茂治

沼本克明

沼本克明

国語学55

国語国文33 1 2

訓点語と訓点資料32

国語学84

国語学107

音声学協会会報47

国語音韻史の研究

成文芸芸 22

国語国文学3 (岐阜大)

国学院雜誌67 1 4 5

訓点語と訓点資料48

昭38

昭39

昭41 1 2

昭46 1 3

昭51 1 12

昭32 1 10 4

昭35 1 7

昭39

昭41

昭47 1 6

昭49 1 11

四 語彙

I 総説

1 全般

国語の語彙の変遷

平安鎌倉時代に於ける 漢籍訓読の国語史的研究

講座国語史 3 語彙史

国語語彙の歴史的研究

古典対照語い表

語彙・語源研究の歴史

個別的な語史研究から体系的な語史研究へ

戦物語に現はれたる色彩

鎌倉時代の武士詞

2 作品研究

平安時代の古訓点の語彙の性格
十六夜日記の語彙
古訓法を例として

濁世・末法の論——方丈記の語彙をめぐって

徒然草研究 語彙について

明恵上人語録
高山寺蔵 却廢忘記一鎌倉時代写本の用語

誤に寄せて——歴史・倉中世（昭和44年12月号）の補訂・正

築島 裕

小林芳規

阪倉篤義編

佐藤喜代治

宮島達夫

竹内美智子

前田富祺

前田千村

春日政治

国語学
の
研究 国語講座4 朝倉書店 昭33

東京大学出版会

大修館

明治書院

笠間索引叢刊4 笠間書院 昭46

国語国文学研究史大成15 昭52

三省堂 文化31の3

心理研究

歴史と地理

昭33

昭42

昭46

昭46

昭46

昭52

昭43

昭61

昭72

築島 裕

江口正弘

小林智昭

江川たつ子

小林芳規

国語学第87集

熊本女子大学術紀要28 昭51

専修国文3

東洋大学短期大学論集

日本文学篇8

国文学解釈と鑑賞35

昭46

昭51

昭43

昭47

昭45

昭44

物語体説話文学の語彙

軍記物語の語彙に関する一考察

保元・平治・平家語彙

平家語彙

平家物語の語向

説話文学の用語

共通説話の語彙・語法——今昔物語と打聞集について——

説話文学における語彙

「正法眼蔵」の用語について

正法眼蔵と言葉(1) (4)

「歎異抄」の国語学的研究(1) 語彙

3 漢語

国語の中に於ける漢語研究

国語史上の一問題——漢語の源流について——

寶篋中世語の諸問題——中世の漢語についての一考察——

常縁本徒然草の漢語

「平家物語」における漢語の研究

保元・平治物語と漢語の章句

今昔物語集の漢語サ変

今昔物語集の漢語形容動詞

山内洋一郎

白井清子

慶野正次

慶野正次

高橋貞一

岩淵悦太郎

宮田裕行

馬淵和夫

寺田 透

田島毓堂

三上悠紀夫

日本の話 言葉と表現 昭49・11

文学 42 昭49・12

国語解説 昭14・11

国語解説 昭14・10

国語教室 昭31・4

解釈と鑑賞 昭16・2

文学論藻 38 昭43・3

日本の説話 言葉と表現 昭49・11

文学・語学 65 昭47・9

傘松 32 5 昭51・5

藤島高校研究集録了 昭40・9

山田孝雄

中田祝夫

佐藤喜代治

柏谷嘉弘

佐藤武義

遠藤光正

桜井光昭

桜井光昭

宝文館 昭15 最45

国語 昭27・4

国語学 84 昭47

研究論叢(山口大教育 昭45・3

学部) 19 昭46・3

宮城教育大学紀要・社会 昭45・5

かひがわ高校国語の研 昭37・3

究 6 昭37・11

国語学 48 昭37・11

学術研究(早大) 11 昭37・11

中国俗文学とその影響を受けた漢語について(研究発表等旨)
 正法眼蔵の語彙——古今昔物を中心に漢語の起源

- 正法眼蔵の漢語についての一考察(1)
- 正法眼蔵の漢語についての一考察(2)
- サ変動詞について——漢語サ変動詞の構造——
- 正法眼蔵のサ変動詞——その用例(1)——
- 正法眼蔵のサ変動詞(2)——その用例(2)——
- 正法眼蔵のサ変動詞(4)——その用例(4)——
- 正法眼蔵のサ変動詞——その用例(5)——
- 正法眼蔵のサ変動詞——その用例(6)——
- 正法眼蔵のサ変動詞——その用例(7)——
- 正法眼蔵のサ変動詞——その用例(8)——
- 正法眼蔵のサ変動詞——その用例(10)——
- 親鸞聖人の選述に見る漢字漢語に就いて
- 「昨夢紀事」に見える漢語について
- 高山寺本古往来に見える漢語

4 訓読語

日本書紀古訓攷証
 訓点語彙の一考察
 梅沢本新撰朗詠集の訓読語について

杉尾 武	言語研究 56	昭 45	1
橋 豊	国語学 53	昭 38	6
片山晴次	北海道駒沢大研究紀要 8	昭 49	3
片山晴次	北海道駒沢大研究紀要	昭 50	1
田島毓堂	9 東海学園国語国文創刊号	昭 45	7
田島毓堂	東海学園女短大紀要 9	昭 49	6
田島毓堂	東海学園国語国文第 7 号	昭 50	3
田島毓堂	東海学園国語国文第 8 号	昭 50	3
田島毓堂	東海学園国語国文第 9 号	昭 51	3
田島毓堂	東海学園国語国文第 10 号	昭 51	9
田島毓堂	東海学園女短大紀要 11	昭 51	10
田島毓堂	東海学園国語国文第 11 号	昭 52	3
田島毓堂	東海学園国語国文第 12 号	昭 52	8
藤野立然	龍谷大学論集 57 号	昭 36	12
鈴木丹士郎	左藤喜代治教授退官記念国語学論集	昭 51	
山田俊雄		昭 39	9

神田喜一郎	養徳社	昭 42
築島 裕	国語学 27	昭 31
小林芳規	訓点語と訓点資料 26 輯	昭 38

法華修法百座聞書抄の漢文訓読語

宮田裕行

王朝文学 8

昭 38 5

打聞集の漢文訓読語

宮田裕行

文学論藻 27

昭 39 3

漢籍訓読語の特徴

小林芳規

訓点語と訓点資料 29 輯

昭 39 7

群書治要古点と教行信証古点・法華経古点との比較

佐藤武義

国語学 研究 8

昭 43 8

平家物語と漢文訓読語の一面

東辻保和

大坪併治教授退官記念
国語史論集 表現 社

昭 51 5

5 記録語類

変体漢文の「併字」

船城俊太郎

国語学 93

昭 45 12

平安時代の記録語における「別」——その読みと性格——

遠藤好英

国語学 研究 12

昭 48 3

平安時代の記録記の性格——「夜前」をめぐって——

遠藤好英

国語学 100

昭 50 3

和漢混淆文の語彙

峰岸 明

日本の説話了言葉と表現 昭 49 11

6 和語

平安時代和文脈系文学の基本語彙に関する二三の問題

大野 晋

国語学 87

昭 46 12

了 梵語

国語中の梵語の研究

上田恭輔

大修館

大 11

梵語と国語

長井真琴

国語科学講座 明治書院

昭 14 11

II 各論

1 語史・語詞

リンザクとヒツサグとの語源について

べい致

「になし」考

「拍子」考

中世語雜記 おどく・ちもと

”手の甲”のよび方について

西東攷

語源と語彙史——「かむ」「かんがふ」「がふ」を追う——

中世における類義語に関する一考察 美人の表現を中心に

鎌倉時代における人物呼称の意識について

八代集における枕詞・序詞の脱奪改名の解説——

懸詞研究(古今集の懸詞と新古今集の懸詞)

「閑冷」考——宴曲十七帖を中心として——

ロクロク考 極楽願往生歌「ロ」の歌から

仏教用語の語釈について(一)——方丈記より——

満沙弥が風情——「方丈記」の狂言綺語について——

「さるべし」と方丈記

「眉間の光」と「とり集めたる」

「方丈記」の「貪賤の報」「妄心」について

築島 松

高松政雄

河原 寛

遠藤和夫

山内洋一郎

前田富祺

曾田文雄

吉田金彦

佐藤武義

森野宗明

小沢道子

西岡欣一

安藤直太郎

相坂一成

瓜生等勝

瓜生等勝

鈴木 実

前田周平

瓜生等勝

国語学54

国語国文387

国語国文4610

国学院雑誌7811

文教国文学5

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

大坪治教退官記念

昭38.9

昭44.7

昭52.10

昭52.11

昭51.11

昭51.5

昭51.5

昭51.5

昭48

昭51.6

昭41.3

昭41.12

昭24.6

昭51.5

昭38

昭38.39

昭46

昭14

昭4640

大福玄寺本方丈記に於ける「身心」について

不請の阿弥陀仏——方丈記についての覚書

方丈記の「不請の阿弥陀仏」考

国文学「不請の解を含む」

再び「方丈記」の「不請の阿弥陀仏」について

「方丈記」の不請の阿弥陀仏について

「不請阿弥陀仏」の意味

「不請阿弥陀仏」私見

徒然草に表はれたる「物」と「心」の関係

「つれづれ草」のつれづれ

徒然草に於ける「人」の語義

「こたま」と「物」——徒然草——

「よき人」の意味論的考察——兼好の所謂「よき人」——

徒然草の語彙ニつ

徒然草における「つれづれ」について

「徒然草」における仏教語解説

徒然草と批評語

吾妻鏡補所引の日本語彙——校本「海外奇談国語解」——

禹管抄に於ける「道理」の一考察

中世に於ける「我が山」の語義

保元・平治物語に現れた時間意識

平家物語に出でる浄土真宗の名称について

青木侂子

松村一雄

瓜生等勝

松村博司

瓜生等勝

森下敏行

山島恵美子

山田昭全

稲田伊之助

野村宗朔

白石大ニ

前田周平

白石大ニ

桑原博史

池田み

武石彰夫

根来 可

渡辺三男

鈴木正道

木原 一

岩竹 亨

御橋惠言

成蹊国文5

台湾

解釈93

松平文庫本方丈記1

八下関商業高等学校創立

国文学論叢

杏権瀉15

古典の諸相

日本文学

国語解釈

文学

国漢1の3

文学

言語と文芸65

高知大国文1

金沢文庫研究173

解釈20112

駒沢大学文学部研究紀

山形県立米沢女子短期

国語と国文学

国文学攷

無尽燈

昭47.3

昭15.4

昭37.4638

昭40

昭43.12

昭44

昭44

昭10.4

昭12.3

昭13.9

昭14.11

昭16.6

昭44.7

昭45.7

昭46.3

昭49.12

昭37.3

昭47.12

昭26.6

昭30.5

大4.11

平家物語の「なつく」に就きて
 平家物語平家正節本における「御前」の読み方について
 平家物語における数量の研究
 今昔物語に於ける「学生」の語に就いて
 今昔物語集の「御・座・左」等の訓をめぐって
 ハ共同研究、今昔物語集における「ニテ」と「ニシテ」
 今昔物語における助数詞の用法(1)(2)
 「昔」と「今昔」——「今昔考」補註——
 今昔物語集の「和ラ」とその周辺
 今昔物語集における「然」について
 今昔物語集における類義語に関する一考察
 美人の表現を中心にした義一ニ
 打聞集に於ける語の釈義一ニ
 沙石集に於ける「世」の類語
 野飼の駒——古語「のがふ」の發掘と古本説話集と——
 明恵上人のことば——阿留辺幾夜守和をめぐって——
 道云の「愛語」
 正法眼蔵轉道話注解メモ
 道云の思想における言葉の意味
 存在と言語——正法眼蔵
 国語資料としての日連聖人遺文から
 ——品詞転成の語を中心にして——

高橋伸幸	近藤政美	長谷川敏正	川口久雄	桜井孝昭	松江今昔物語 輪註会 峰岸明	春日和男	佐藤武義	宮田裕行	佐藤武義	岩淵悦太郎	白石大二	山内洋一郎	松尾拾	西尾実	桜井統一	春日佑芳	森本和夫	星忠子
国語研究 12	国語研究 25	東横国文学 2	国語教室	学術研究 7 (早稲田大学) 昭 33	国語学 68	文学論藻 35 36	語文研究 24	文学研究 57	東洋大学短期大学紀要 1	国語学 91	国文学誌要 28	文学	国語国文	語文(日本大学) 33	言語生活 48	国語研究(新潟県高校 実存主義) 50	国文学 18 11	島田勇雄先生退記念 とばの論文集 前田書店
昭 41	昭 43	昭 44	昭 14	昭 33	昭 42	昭 42	昭 42	昭 42	昭 45	昭 9	昭 15	昭 41	昭 45	昭 39	昭 42	昭 44	昭 48	昭 50
12	12	12	5	11	3	3	10	11	3	12	2	7	5	1	3	12	9	3

国語副詞の史的研究(1)、(2)、(3)
 「近管・近來」と「中比」となど

程度副詞おほきに小考

中古の程度量副詞「た」の機能の在り方
 日本語源氏物語「た」の機能の在り方
 変体副詞「た」の断片・昔語集への付加

方丈記の二つの副詞極楽に「た」について

「たち」平家物語「た」について
 平家物語副詞覚書(その1) 今昔物語集との比例をめぐって

平家物語副詞覚書(その2)

平家物語副詞覚書(その3)

平家物語に現われた音象徴詞の性格

法華百座聞書抄の副詞語彙

今昔物語集の擬声語の用例

今昔物語集副詞概観

今昔物語集における副詞の呼称

副詞の語性と今昔物語集のADV型

井手至・塚原
 鉄雄・浜田敦
 犬井善寿

原 栄一

井上博嗣

原 栄一

原 栄一

山田由伎子

原 栄一

原 栄一

猿田知之

佐々木 俊

桜井光昭

原 栄一

船越俊太郎

原 栄一

大阪市立大学国語学
 大塚調子第一三三
 軍記と語り物77

金沢大学教養部論集8

女子大日文67

語文研究3132(九大)

金沢大学教養部論集8
 (人文科学)

国語国文学報20

金沢大学教養部論集人
 語文研究37

語文研究39

立教大学日本文学35

法華百座聞書抄索引
 掲載論文(早稲田大)

学術研究(早稲田大)

大分工高専研究報告4

金沢大学教養部論集人
 国語学77

福田良輔教授退官記念
 論文集九研究室福田良輔
 編輯教授退官記念事業会

昭45・15・7

昭46・1・2

昭46・1・10

昭47・1・2

昭47・1・10

昭41・1・12

昭49・1・3

昭49・1・8

昭50・1・6

昭51・1・2

昭50・1・3

昭50・1・3

昭44・1・10

昭44・1・6

今昔物語集の象徴詞——表現論的考察
 今昔物語集の陳述副詞「すこしも」について
 宇治拾遺物語の擬音語・擬声語
 「須」を通して見た改行信証の意誌

3 形容詞

形容詞の語彙史の変遷——中古から中世へ——
 中世文書に見える形容詞
 松浦宮物語における「なまめかし」について
 「つぎづさし」「なかし」などについて
 「愚管抄」にみえる形容詞語彙
 平家物語における形容詞語彙について——総論上中——
 今昔物語集の形容詞の研究(1)、(2)
 国語史上からみた「今昔物語集」の形容詞語彙

4 動詞

動詞の研究
 古本説話集の動詞——語彙論的考察——
 鎌倉時代の動詞についての一考察

山口仲美 王朝5 昭47.5
 佐藤武義 宮城教育大 国語国文5 昭49.2
 市村和子 国文29 昭43.7
 重見一行 中世文芸44号 昭44.7

寿岳童子 国語学22 昭30
 猿田知之 日本文学論叢(茨城キ 昭52.3
 北村英子 樟蔭国文学14.2号 昭51.9
 北山谿太 解釈と鑑賞 昭29.3
 三上悠紀夫 福井県立藤島高校研究 昭42.10
 近藤政美 愛知県立大学文学部論 昭49.12
 佐藤武義 名城教育大紀要7.8 昭48.12
 佐藤武義 大坪併治教授退官記念 昭49.5
 佐藤武義 国語史論集 表現代社 昭51.5

慶野正次 笠岡書院 昭47
 山内洋一郎 弘島文教女子大学研究 昭43.3
 村上雅孝 弘島文教女子大学研究 昭44

5 接辞

平家物語を中心とした接頭辞「御」
動詞講成接尾フ・ムの研究
今昔物語集を中心として

小松 正
東辻保和

文芸研究第61号
高知大学学術研究報告19 昭44 1 2
昭46 1 3

五 語法

I 総誌

日本文法史

漢文の訓詁によりて伝へられたる語法

近古の語法

国文法 文語篇

中等国文法別記(文語篇)

院政時代の語法

中世の文法

講座 解釈と文法

日本語法史 家物語・方丈記・徒然草・説話物語・謡曲・狂言

中世文語の研究

中世文語の研究

II 資料研究

後拾遺和歌集の位置

古今集・新古今集の解釈文法

新古今の文法

新古今集の解釈と文法上の問題点 I

新古今集の歌壇と特殊文法上の問題点 II

新古今集の歌壇と特殊文法上の問題点 II

小林好日

山田孝雄

土井忠生

湯沢幸吉郎

時枝誠記

山田 巖

浜田 敦

富倉徳次郎 他

岩井良雄

山口明穂

根来 司

国語科学講座明治書院

室文館

国語と国文学

早稲田大学出版部

中教出版

岐阜大学文学部研究

報告 日本文法講座3 明治書院

明治書院

笠間書院

明治書院

笠間書院

昭 8

昭 10

昭 13 10

昭 25 4

昭 27 3

昭 29 10

昭 32

昭 34 10

昭 46 11

昭 51 8

菊沢季生

江湖山恒明

江湖山恒明

山崎敏夫

峰村文人

文芸研究

時代別 解釈文法 至文堂

日本文法講座4 解釈文

法文法 講座 4 解釈文

明治書院 解釈と文法 2

明治書院 解釈と文法 2

昭 25 10

昭 30

昭 33 2

昭 35

昭 35

新古今集の語法と解釈(1) (10)
 新古今集の語法と解釈(1) (12)
 三代歌風と文法・新古今集
 近古語法試論——閑吟集
 「とはずがたり」における中世語法と近世語法の二重表現
 形式日本精神と国語問題(方丈記の文法・文体)
 方丈記の解釈と文法上の問題点
 徒然草にあらわれた文法上の諸問題
 徒然草の解釈文法
 徒然草の文法
 徒然草を讀むために(解釈文法)
 徒然草と中世語法
 「平家物語」——徒然草との比較において——
 徒然草の言語——文法
 平家物語の解釈文法
 平家物語の用語と語法
 平家物語の文法
 平家物語の語法
 平家物語と中世語法
 平家物語の解釈と文法上の問題点
 語と文体

宮田和一郎	国文学71315	昭3711
宮田和一郎	国文学8133	昭3811
久保田淳	文法14	昭442
浅野建二	文芸研究	昭2510
西崎亨	文法28	昭456
菊沢孝生	実践国語教育	昭1310
土田知雄	講座国語と文法5	昭34
白石大二	明治書院鑑賞183	昭283
白石大二	時代別 解説文法 至文堂	昭30
白石大二	日本文法講座4 解説文	昭332
島田勇雄	解説と鑑賞	昭2712
白石大二	講座書院 解説と文法5	昭34
橋純一	明治書院 解説と鑑賞	昭278
関根俊雄	徒然草講座4 有精堂	昭4911
富倉徳次郎	時代別 解説文法	昭307
山田巖	解説と鑑賞229	昭322
山田俊雄	日本文法講座4 解説文	昭332
安田喜代門	国文学	昭3310
山田巖	講座書院 解説と文法5	昭3410
富倉徳次郎	講座書院 解説と文法5	昭3410
岡村和江	平家物語 語必携 学燈社	昭42

語り本平家と文法
 語り本平家と文法
 太平記の語法について
 保元平治物語の語法について
 説話物語の解釈と文法上の問題点
 語法より観る今昔物語
 今昔物語の文法
 誤用・稀用・奇例の処理
 今昔物語集の語法の研究
 宇治拾遺物語の語法について
 「近衛本撰集抄」に於ける中世語法と近代語法の二重表現
 日連聖人遺文の語法と「文法上許容事項」との関係
 日連聖人遺文の国語学的研究——体言と待遇意識——
 日連聖人遺文の国語学的研究(1)
 日連聖人遺文の資料としての研究(2)
 法花經文法論

Ⅲ 各説

1 体言止 係り結び

八代集の体言止めの歌の性格

渥美かざる	日本文法講座4 解釈文	昭33
渥美かざる	法政大学国語院 国語と文法5	昭34.10
小山朝丸	明治書院 国語と文学	大15.10
小山朝丸	国語国文の研究2	昭2.6
渡辺綱也	講座 解釈と文法5	昭9.30
石垣謙二	明治書院 国語と文学	昭16.10
山田 巖	日本文法講座4 解釈文	昭33.2
山田忠雄	法政大学国語院 国語と文法5	昭33.6
桜井光昭	明治書院	昭41.3
小山朝丸	国語と国文学	昭2.7
西崎 亨	解釈19.6	昭48.6
山上、泉	大谷学報93	昭13.12
春日正三	立正大学国語国文6	昭42.1
春日正三	立正大学文学部論叢27	昭42.7
春日正三	立正大学文学部論叢27	昭42.7
春日正三	立正大学文学部論叢27	昭43.6
戸田浩暁	山善房 文学紀要(富山大学) 11 昭36.3	昭40.10

中世 哲

文学紀要(富山大学) 11 昭36.3

体言止 万葉集 古今集 新古今集
連体形 終止法 表現 新古今集
体言止 今昔類聚 源氏物語集
「はかばか」 古今類聚 新古今集
初句末 新古今類聚 初句切
係助詞 新古今類聚 初句切
係結法 中心として

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

中世初期の強調表現に関する考察
十三代集に於ける係助詞「こそ」の用法
ナムの係り結び

沙石集の係助詞 「なむ」「こそ」について

菅原美枝子

国文観見 8
安田女子大学紀要 2
安田女子大学国文論 1

昭45.6

須田幸子

国文観見 8
安田女子大学紀要 2

昭43.12

菅原美枝子

国文観見 8
安田女子大学紀要 2

昭48.3

下河部行輝

国文観見 8
安田女子大学紀要 2

昭46.3

門前真一

山辺道 9
信濃教育 104

昭37.12

三ツ橋忠二

信濃教育 104

昭47.3

木村建

中央大学国文 14

昭46.2

松村晴義

国語(初木県高国研) 4

昭39.8

井上章

佐藤喜代治教授退官記
国語国文学 8

昭51.6

松島典雄

国語国文学 8

昭34.10

田中ゆかり

国語国文学 15

昭51.2

伊牟田経久

佐伯栞友博士喜寿記念
国語国文学 15

昭51.6

山口明穂

国語国文学報 19

昭40.11

蔵野嗣久

国語研究室
国文学攷 25

昭36.6

永井滋

国文学攷 4

昭13.9

石川常彦

国語国文 42.8

昭43.8

石川常彦

武庫川国文 5

昭43.3

田部共喜久枝

国文攷

昭51.7

小池清治

言語と文芸 9.5

昭42.9

藤田道也

愛媛国文研究 12

昭38.2

愚管抄の係助詞「ぞ」「なむ」「こそ」について

蔵野嗣久

安田女子大國語国文論 昭46-6

2 複合語

国語複合動詞の研究

動詞の複合形式について

今昔物語集における推量語「むず」「むとす」の用法

関一雄

笠間書院 昭52-2

山口亮二

国語国文 昭35-6

吉田金彦

訓点語と訓点資料 昭36-11

稻垣瑞穂

研究紀要(明石工高専) 昭40-12

横井雄峰

印度学仏教学研究 昭40-1

田島毓堂

宗学研究 昭42-3

高橋一夫

国立国語研究所論集 昭34

正法眼蔵の語法の国語学的考察

日蓮聖人遺文の「まいせ」語的性明

3 代名詞

国語史より見たる中世初期——人代名詞を中心として

鎌倉時代に於ける人物呼称意識について

梁塵秘抄に於ける代名詞の解釈を中心として

方丈記に見えた代名詞について

軍記物語に見える代名詞について

いなり遠林の指示語の一特殊用法について

平家物語に於ける指示語の特殊用法について

宇治拾遺物語に於ける代名詞

古今著聞集に見える代名詞

渡辺綱也

国語と国文学 昭29-10

森野宗明

国語論集 昭51-12

菊沢孝生

国語研究 昭14-8

菊沢孝生

鴨長明研究 昭11

菊沢孝生

国語研究 昭14-11

清水 功

名古屋大学国語国文学 昭34-6

清水 功

平家物語 昭48-4

菊沢孝生

国語研究 昭13-7

菊沢孝生

国語研究 昭14-6

春日正三

文学論叢 3

昭 42 3

二八八

4 活用

院政鎌倉時代における二段活用の一段化

宮内庁書陵部蔵群書治要古点の訓読

院政時代の一段活用動詞考——梁塵秘抄に現われた——

徒然草の語形のゆれ区めぐつて

軍記物の命令形について

延慶本平家物語の「おほす」活用考

三宝絵詞東大寺切追考——「おぞる」の活用など

今昔物語集における「活用語+を」について

「今昔物語集」にみえる「セセル」について

山内洋一郎

井上親雄

藤田昭夫

細谷直樹

湯沢幸吉郎

宮地幸一

春日和男

佐藤武義

浅野敏彦

国語学 88

大坪併治教授退官記念
国語史論集表現代学社

秋田大学国語国文学紀要

国語と国文学 47 6

国語教育 11 9

国語研究 9

大坪併治教授退官記念
国語史論集表現代学社

国語学研究 5

解釈 19 9

昭 48 3

昭 51 5

昭 30 3

昭 45 6

大 15 9

昭 34 12

昭 51 5

昭 40 8

昭 48 9

5 動詞

「致す」「仕る」の交渉

方丈記に現はれたる動詞に就て

撰集抄の「いまそかり」を中心に

撰集抄の「みそなほす」について

「ぬく」「ぬぐ」考
徒然草五十三段の「鼎をぬく」について

穂田走樹

菊沢季生

桜井光昭

桜井光昭

田島毓堂

国語国文 29 4

鴨長明研究 35 36

国文学研究 51

談話文学研究 6

金成国文 16 1

昭 35 4

昭 13

昭 48 10

昭 47 2

昭 44 9

正法眼蔵の語法——サ変動詞について 序説
 「正法眼蔵」における「まこゆ」について
 正法眼蔵の語法——サ変動詞について
 方丈記に見えたる副用言に就て

6 副詞・形容詞

古代日本語の形容詞の構造
 古点の況字をめぐって
 漢文訓詁史上の一問題——再詭字の成立について——
 古点の況字續貂
 今昔物語集の形容詞論
 今昔物語集における再詭字について
 今昔物語に於ける「豈(アニ)」の用法について
 今昔物語における「ナニ」の用法について
 形容詞——シシについて——
 定家ノ歌における「なかりけり」・「なし」の用法の一面
 鴨長明に見えたる形容詞について

田島臨堂 駒沢大学 宗学研究 10 昭43-3
 水野弥穂子 駒沢短期大学 研究紀要創 昭48-3
 田島臨堂 名古屋大学 国語国文学 26 昭45-7
 菊沢季生 鴨長明研究 37 昭13

桜井茂治 国語国文 37 8 昭43-8
 春日政治 国語と国文学 昭13-10
 小林芳規 国語学 16 昭29-3
 小林芳規 東洋大学 紀要 12 昭34
 馬淵和夫 説話文学 研究 6 昭47-2
 宮田裕行 王朝文学 5 昭36-2
 谷光忠彦 中央大学 国文 3 昭35-3
 谷光忠彦 中央大学 国文 7 昭39-3
 鈴木丹士郎 国語学 研究 3号 昭39
 和泉久子 鶴見女子大学 紀要 6 昭43-12
 菊沢季生 鴨長明研究 30 昭12

了 助動詞

助動詞の変遷 国語研究会記録三

国語教室 昭14-9

回想の助動詞の用法

敬讓助動詞マラスルについて

日本語の助動詞の役割「タシ」

助動詞タシの源流私見

中世人の言語意識——過去の助動詞「き」に対するもの

助動詞「シム」の一用法——能動性明示の用法

院政鎌倉時代におけるジ・マジ・ベカラス

中世における「シム」の一用法

中世の助動詞連接——平安期から鎌倉期にかけての変遷

指定辞「たり」続紹——平安時代の訓点本と今昔物語集

比況の助動詞「ごとし」——漢文訓読と今昔物語集の用法

八代集の「らむ」について

「徒然草」の助詞・助動詞 国語史と「徒然草」

助詞「中世古語」

「中世古語」の中心としてみた諸本の特質

徒然草における助動詞「まし」

中世の語話・軍記物における「まほし」と「たし」

「平家物語」における助動詞「おほし」

「平家物語」における助動詞「おほし」

平家物語の「おほし」の用法について

平家物語の「おほし」の用法について

桜井玄昭

国語学 23

昭30 12

春日政治

国語国文の研究 27

小林芳規

解釈と鑑賞

昭32 11

森野宗明

文学・語学

昭35 9

山口明德

国文白百合 2

昭46 3

来田隆

国語学 96

昭49 3

小林賢次

言語と文芸 84

昭52 6

片岡了

大谷学報 40 4

昭40 3

水野清

国語通信 76

昭40 5

稲垣瑞穂

研究紀要(静岡女子短)

昭44 3

稲垣瑞穂

研究紀要(静岡女子短)

昭43 3

藤井茂博

国語教育研究 6

昭37 12

塚原鉄雄

文法 210

昭45 8

大塚老信

国語学 12

昭48 3

大西善明

中世文芸 30

昭31 11

桑原博史

国語学 12

昭48 3

井上親雄

軍記物とその周辺

昭44 12

梶原溥太郎

国語学 22

昭47 12

小路一光

国語学 22

昭48 12

近藤政美

国語学 22

昭48 12

近藤政美

国語学 22

昭48 12

鎌田広夫

国語学 22

昭48 12

8 助詞

活用形に承接する「なり」の変容	北原保雄	昭51.6
中世談話における助動詞「つ」と「ぬ」について	梶原湯太郎	昭44.10
中世談話における「たり」と「り」	梶原湯太郎	昭49.3
古今著聞集に於ける助動詞の相互承接	梅原恭則	昭44.11
法華百座聞書抄における助動詞について	坂詰月治	昭50.3
今昔物語集に於ける使役の助動詞ス・サス・シムについて	堀田雲治	昭19.10
助動詞「らむ」——今昔物語集の場合——	桜井老昭	昭36.11
今昔物語集における使役の助動詞「すさすしむ」の考察	坂口勝子	昭46.12
三帖和讃における「しむ」の用法	中川浩文	昭40.5
「歎異抄」の助動詞について	三上悠紀夫	昭41.3
口語資料としての日蓮聖人御遺文から	島田勇雄	昭28.11
口語資料としての日蓮聖人御遺文から	島田勇雄	昭29.11
日蓮遺文における助動詞の用法	佐田智明	昭42.12
正法眼蔵の一語法——アラズヨリハのズの活用形について	田島敏堂	昭41.9
活用形に承接する「なり」の変容	佐伯梅友博士喜寿記念	昭51.6
中世談話における助動詞「つ」と「ぬ」について	国語学研究会	昭44.10
中世談話における「たり」と「り」	ことばの研究5	昭49.3
古今著聞集に於ける助動詞の相互承接	文学論藻43	昭44.11
法華百座聞書抄における助動詞について	法華百座聞書抄総索引	昭50.3
今昔物語集に於ける使役の助動詞ス・サス・シムについて	橋本博士還暦記念国語学術研究(岩波書店)	昭19.10
助動詞「らむ」——今昔物語集の場合——	学術研究(早稲田大学)	昭36.11
今昔物語集における使役の助動詞「すさすしむ」の考察	10 文芸と思想35	昭46.12
三帖和讃における「しむ」の用法	女子大国文87	昭40.5
「歎異抄」の助動詞について	福井国語国文12	昭41.3
口語資料としての日蓮聖人御遺文から	立正大学文学部論叢1	昭28.11
口語資料としての日蓮聖人御遺文から	国文論叢(神戸大学)	昭29.11
日蓮遺文における助動詞の用法	北九州大学文学部紀要2	昭42.12
正法眼蔵の一語法——アラズヨリハのズの活用形について	会報(国語学懇話会)8	昭41.9
助詞史研究の可能性	石垣謙二	昭22.6
助詞の歴史的研宄	石垣謙二	昭30.11
移動性動作の目標を示す助詞「へ」について	青木侂子	昭29.6
「へ」と「に」の消長	青木侂子	昭31.9
接続助詞「から」と慣用語「からは」	吉川泰雄	国語研究第3号
	岩波書店	昭22.6
	国語と国文学	昭22.6
	国文2	昭29.6
	国語学24	昭31.9
	国語研究第3号	

助詞「が」の表現的価値

中世文語における接続助詞「とも」
 中世文語における一つの面について——意味認識の過程——
 「だに」「すら」の用法上の差異に就て
 院政・鎌倉期に於けるタニ・スラ・サヘ
 「副助詞」の中「など」——古典解釈のための助詞
 中世の副助詞——タニとサヘの交替——
 禁止の「そ」について
 平安・院政・鎌倉期における終助詞「なむ」
 助詞「の」の新世界における文脈的一考察——
 三帖和讃における「命」を「命」の解明
 大福寺本方丈記における「ト」「トイヘドモ」覚書
 中世の接続助詞「から」についての一問題
 接続助詞「然」の中心と考察——
 軍記物語の副助詞スラ・タニ・サヘについて
 天草本平家物語の格表現——平家物語と対比して——
 「平家物語」「天草本平家物語」対比による格表現発達過程
 接続助詞「を」の機能について
 中古の程度量副詞の機能の在り方
 終助詞「ソ」について——嘉禄本古語拾遺から——
 古本詠話集の接続「が」助詞について

小林好日	山口明穂	山口明穂	加納協三郎	加納協三郎	松村 明	寺田ゆき	福島邦道	佐藤宣男	佐藤美和子	中川浩文	香山要子	出雲朝子	今村幸子	阿食かをる	鈴木智子	鈴木智子	森山 隆	井上博嗣	富田大同	山口康子	
国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学	国語と国文学
昭13-10	昭44-3	昭47-3	昭13-6	昭13-6	昭33-4	昭34-5	昭32-7	昭41-10	昭36-7	昭43-9	昭43	昭34-4	昭41-7	昭50-2	昭41-9	昭48-3	昭40-3	昭46-10	昭52-3	昭46-3	

六 文章・文体・表現法

工 総説

1. 文章

日本文学史の研究

漢文訓読語の国語の文章に対する影響
——「クシテ」と「クテ」との比較を中心にして——

連体詞「させる」の文章史的性

連体詞「させる」の文章史的性
——中古・中世を中心にして——

連体詞「キハメタル」の文章史的性

平安時代の記録体の性格とその変遷

説話集の文章(1)——共通説話の語彙・語法を中心にして——

説話集の文章(2)

説話集の文章(3)——共通説話の語彙・語法を中心にして——

鎌倉時代の軍記物の文章の歴史的成立

2. 文体

座談会 思想と文体 その二

古代から中世へ——「文体」における中世の成立——再論——

佐藤喜代治 明治書院 昭41-10

佐藤武美 国語学 68 昭42-3

遠藤好英 月刊「文法」 昭44-11

遠藤好英 宮城高専研究紀要 6 昭45-3

遠藤好英 宮城学院女子大学「日本文学」11 昭48-3

遠藤好英 佐藤喜代治教授退官記念「国語学論集」 昭51-6

宮田裕行 文学論叢 36 昭42-5

宮田裕行 王朝文学 14 昭42-6

宮田裕行 王朝文学 15 昭43-5

高島権一 国語と国文学 昭7-12

大野・永積 日本文学 10の1 昭36-12

永積安明 日本文学の成立 昭37-68.9

邦外の文体 中世文体の位置

和漢混淆文について (座談会)

本邦における漢文の展開——上代から鎌倉時代までの素描——

特長・文体に見る——
鴨長明・石八郎・源朝房・深草院・二条房・神皇正統記・
無田・八能・兼好・能兼・阿弥・
古・兼・八能・兼好・能兼・阿弥・
然・後・草・
論・
世・

阿弥・兼好・能兼・阿弥・
然・後・草・
論・
世・

説話文学の文体——総論

説話物語の文体

鎌倉の軍記に於ける新しき文体の創始及完成

「軍記もの」の思想と文体

軍記物語の文体

文体から見た軍記物語の流れ

語法と文体

説話文学の文体研究(1)——説話集における和漢混淆の度合——

説話文学の文体研究(2)——戦記文学と比較して——

中世法語の文体

3. 表現法

中世人の思惟と表現——中世文化史研究の対象とすべきもの

中世における思考と表現

禁止表現法史

寿岳章子 国語と国文学 51, 4 昭49, 4

岩淵悦太郎他 文学 昭34, 3

築島 裕 日本の説話・7 昭49, 11

久保田淳 国文学 14, 2 昭44, 1

山田俊雄 日本の説話・7 昭49, 11

岡村和江 日本の説話・7 昭49, 11

五十嵐力 歴史と国文学 昭15, 5

梶原正昭 日本文学 11, 3 昭37, 3

岡村和江 解釈と鑑賞 28, 4 昭38, 3

西尾光雄 国文学 9, 14 昭39, 11

岡村和江 平家物語心構 (学燈社) 昭42, 7

橋本仲美 国文学 昭42, 7

橋本仲美 国文学 昭43, 7

武石彰夫 日本文学研究 昭36, 10

桜井好朗 歴史学研究 251 昭36, 12

山口明穂 国語と国文学 51, 4 昭49, 4

池田(天坪)耕治 国語国文 昭10, 9

中世国語における原因・理由を表わす条件句
 中世語における副詞の表現
 — 助動詞の変化に依りたる役割の考察 —
 中世初期の強調表現に関する考察
 — 「ことごと」の用法を中心として —
 中古和歌から中世和歌へ — 表現手法の変化の一様相 —
 「軍記物」における自然環境の表現
 説話文学の表現 — 雑論
 中世物語説話の表現

4. 敬語法

敬語の変遷
 敬語史論考
 鎌倉室町時代の敬語
 鎌倉・室町時代の敬語 — A 丁寧語法 V と A 丁寧語彙 V の発達
 中世敬語の特質
 敬語の変遷のとらえ方 — 中世
 敬語表現
 近代の敬語工
 中世の敬語
 中世の敬語概観
 中古中世の敬語の研究

小林十草	山口明穂	萩野嗣久	稲田利徳	小松茂人	山口仲美	森野宗明	今泉忠義	石坂正蔵	坂原鉄雄	大塚光信	大塚光信	佐藤武義	梅井光昭	山田 巖	穂田定樹		
国語学 94	国語と国文学 54-4	国文学攷 25	国語国文 38-9	文学研究 42	中世軍記物 7	日本の説話 7	解釈と鑑賞 大八州出版	解釈と鑑賞	国文学 5-2	国文学 11-8	国文学 11-8	文法 月刊文法 20-10	講座国語史 5	敬語講座 3	清文堂出版		
昭48-9	昭52-4	昭36-6.8	昭44-9	昭46-9	昭49-11	昭49-11	昭14-7	昭19	昭31-5	昭35-1	昭41-7	昭43-12	昭45-8	昭46	昭49-3	昭49-3	昭51-2

中世敬語の一考察 —— 「ます」の源流について ——

北村旬子

女子大國文 19

昭35 11

鎌倉時代の文語における「給ふ」

根来司

國語と國文學 38 1

昭36 11

下二段「たまふ」の終止法 —— 連体終止の観点から ——

山内洋一郎

國文學攷 54

昭45 9

鎌倉時代の敬語二題 —— 「給ふ」の形容詞直接用法と「申せし」型序種形式と ——

森野宗明

金沢大学教養部論集 (人文科学編)

昭39 2

中世語「申す」の表現内容の多様性

片岡 了

文芸論叢 (大谷大) 6

昭51 3

「ソウロウ」と「サムロウ」

吉沢英則

藝文 1 4

昭42 3

丁寧語「候ふ」の答返連用について —— 中古・院政初頭における状況 ——

森野宗明

國語學 68

昭42 3

作品別・古典敬語表現

桜井光昭

國文學 17 4

昭47 3

軍記物語に於ける待過表現の考察

矢野 宮

國語教室

昭10 7

中世初期説話文学における敬語の表現

三沢光博

研究年報 (日大文理) 11

昭37 12

中世敬語 —— 受益敬語について ——

岡崎正雄

国学院雑誌 72 11

昭46 11

御加草子・仏教文学の敬語

佐藤 茂

敬語講座 3 (明治書院)

昭49 3

II 資料研究

1. 文章 文体 (北鼓研究)

古今・新古今の文体的研究

村井 順

淑徳国文 18

昭52 1

方丈記と徒然草

永積安明

岩波講座・日本文学史 四卷

昭33 78

永積氏の「方丈記と徒然草」を讀んで

西尾 実

日本文学

昭33 9

永積氏の「方丈記と徒然草」を讀んで

石母田正

文学 26 9

昭33 9

「方丈記」と「徒然草」との文体論的考察
 徒然草の和文体と源氏物語・枕草子の文章
 徒然草と沙石集 その思想と文体とをめぐって

中世紀行文学とその文体
 「海道記」・「東関紀行」・「十六夜日記」の句表現について
 「平家物語」の「天草本平家物語」対比による
 格表現発達過程の一断面

鎌倉文学の寫實性について
 「平家物語」と「方丈記」の文体の比較が示す問題
 平家物語と記録體の文章

平家・謡曲・近松の詞章における漢詩文
 文體における中世の成立
 「平家物語」と「方丈記」をめぐって
 太平記と記録體の文章

三宅稔詞と今昔物語集の文体
 「共通説話の語彙を中心として」

今昔物語集と徒然草
 「時の助詞をめぐって」言語と文体の問題を
 宇治拾遺物語の文体 今昔物語集との比較から

宇治拾遺物語の伝承と文体
 「古本説話集との比較から」(1)
 宇治拾遺物語の伝承と文体(3)・(4)
 「十訓抄」の文体について

古今著聞集の表現に關する一考察
 今昔物語集・宇治拾遺物語との比較を通して

水谷麗子	金城国文 7, 3	昭 36
岡村和江	解釈と鑑賞 27, 12	昭 37, 11
藤原正義	日本文学 11, 10	昭 37, 11
山田潤三	国語国文 46, 5	昭 52, 5
鈴木智子	藤女子大学国文学雑誌 13, 48	昭 48, 12
木藤才蔵	佐賀大学文理学部 文学論集第一輯	昭 28, 4
佐藤喜代治	文学研究	昭 28, 12
佐成謙太郎	解釈と鑑賞	昭 31, 6
永積安明	文学	昭 33, 10
西崎 亨	解釈 17, 5	昭 46, 5
宮田裕行	東京都立短大協会 委託研究報告 6	昭 44, 8
白西大二	早稲田大学教育学部 学術研究 15	昭 41, 12
浦野洋美	日本文学(東京女子大) 29	昭 42, 10
小峯和明	文芸と批評 4, 3	昭 49, 11
小峯和明	文芸と批評 4, 5, 6	昭 51, 1, 1, 7
藤本徳明	金沢美術工芸大学学报 15	昭 46, 6
福田益和	語文研究 39, 40 (併号)	昭 50, 6

2. 文章・文体 (各作品研究)

坂名文より和漢混清文へ——俊成の文体を中心として——

「松浦宮物語」における文体上の問題点

「成尋阿闍梨女日記」の文体
——文体標識として「近侍同語」および類用語群——

方丈記序説

方法論的にみた方丈記の作品研究

方丈記の解釈

作品としての方丈記の新しい解釈

長明の文章観と文章——和漢混清文巻長のあとづけ——

「方丈記」における詩と散文

方丈記の文構造——和漢の混清

大福光寺本「方丈記」の文章における和漢の混清について
——和漢混清文の文体分析に関する試案——

文体の成立と方丈記

方丈記の文体

方丈記の論理的構造
——方丈記の文体的研究——

鴨長明の文体

久松潜一

西端幸雄

山口雄輔

永積安明

西尾実

菅原真静

高不市七助

築瀬一雄

阪下圭八

遠藤好英

峰岸明

西尾実

谷岡武城

菅原真静

築瀬一雄

文体論研究 6

人文論叢(大阪市立大学院) 昭51. 3

国学院高校社要 16

文学 4. 5

文学 9. 4

文学 19. 4

文学 29. 5

文学 27. 4

文学 29. 33

文学 29. 33

文学 35

文学 8. 8

文学 1. 3

文学 2

文学 1. 3

文学 5. 12

昭40. 6

昭51. 3

昭51. 3

昭19. 11

昭26

昭29

昭29

昭34. 3

昭34. 12

昭34. 12

昭35. 7

昭15

昭28

昭28. 29

昭35. 12

昭38. 12

方丈記の思想と文体
 伊藤博之
 ばつづく・みらあ・伊藤博之氏の「方丈記の思想と文体」
 岡村政裕
 大福光寺本方丈記の文体について
 春山孝子
 方丈記構想論の試み
 山下 宏
 文系形式より見た高山寺蔵古往来の文体
 宮田裕行
 消息文体としての高山寺蔵古往来
 原田光枝
 特に起語と語語の整理
 鈴木栄一郎
 徒然草の文章
 石井庄司
 徒然草の文章
 西宮一民
 徒然草の文章論的研究
 百川武彦
 徒然草を主材とした文章論の展開
 白石大二
 徒然草の二文脈——和文脈と訓読語脈——
 森田良行
 徒然草の発想・文体と学習指導——百三十七段を中心として——
 中田祝夫
 斎藤義光
 徒然草と「漢文訓読」雑考
 中田祝夫
 「徒然草」の文章について
 武田 孝
 吉田兼好の文体——特につれづれ草に即しての試論——
 桐原滙重
 「徒然草」の文体
 久保田淳
 徒然草の語法と文体
 白石大二
 徒然草の語法と文脈
 白石大二
 擬古文としての「徒然草」の文体
 田辺 爵

伊藤博之	日本文学	9	11	昭36	1
岡村政裕	日本文学			昭36	3
春山孝子	鹿兒島女子短大紀要	1		昭41	3
山下 宏	言文攷	4		昭46	5
宮田裕行	王朝文学	12		昭40	11
原田光枝	王朝文学	12		昭40	11
鈴木栄一郎	歴史と国文学			昭7	1-3
石井庄司	文学			昭10	11
西宮一民	国語国文	20	7	昭26	8
百川武彦	国語国文の研究	2	5		
白石大二	国文学	5	7	昭35	7
森田良行	国文学研究	23	(早大)	昭36	3
中田祝夫	解釈と鑑賞	27	12	昭37	11
斎藤義光	国文学言語と文芸	42		昭40	9
中田祝夫	文法	2	10	昭45	8
武田 孝	解釈	20	11	昭49	12
桐原滙重	国文学	5	12	昭35	10
久保田淳	国語通信	121		昭44	11
白石大二	解釈と鑑賞	35	3	昭45	3
白石大二	明治書院			昭45	8
田辺 爵	文法	2	10	昭45	8

- 徒然草の言語——文体
- 徒然草の文体と思想
- 吾妻鏡楳文上の一特色
- 吾妻鏡に見える「是(これ)の文章法的機能について
- 吾妻鏡の文体——「被(か)レ」字で受動態を表わす用法を中心として——青木 孝
- 吾妻鏡における「今(いま)の道(みち)をたずねて」——松下貞三
- 阿仏尼の文体——「十六夜日記」を中心にして——佐山 濟
- 神皇正統記の表現について——平田俊春
- 平家物語文章私見——後藤丹治
- 平家物語の詞章について——語り本を中心にして——宮坂和江
- 平家物語の通時的研究的試論——笠 榮治
- その章句の獨立的傾向について——
- 平家物語語り本の詞章について——一方流を中心にして——宮坂和江
- 平家物語の文章論的研究——福島邦道
- 平家物語における「つつつ」——文章手法の一考察——浜谷絃子
- 平家物語の意義(漢字仮名交り文について)——山口諭助
- 平家物語——古典読解と文論——西田直敏
- 平家物語の文章について——高橋貞一
- 平家物語の文體と語法——江洲山恒明
- 平家物語の文體について——篠田 融
- 平家物語における一種の子持ち文——南不二男
- 平家物語研究史の文体——永積安明氏を基軸として——枋木孝雄

増淵恒吉	徒然草講座4(有精堂)	昭49	11
山内瀧三	大谷女子大國文	昭51	4
青木 孝	青山学院女子短期大学	昭44	11
青木 孝	紀要23	昭48	
青木 孝	青山学院女子短期大学	昭49	11
青木 孝	日本漢文学史論考(倉波)	昭49	11
松下貞三	國語と國文学	昭50	5
佐山 濟	國文学	昭35	10
平田俊春	國語と國文学	昭39	4
後藤丹治	安藤正次教授遺曆記念論文集	昭15	2
宮坂和江	実践女子大紀要4	昭31	1
笠 榮治	糸高文林	昭33	2
宮坂和江	國語と國文学	昭33	3
福島邦道	國文学	昭35	7
浜谷絃子	藤女子大國文学雑誌4	昭43	9
山口諭助	潮音	昭43	11
西田直敏	月刊文法	昭44	1
高橋貞一	永山勇博士退官記念論集(風間書房)	昭49	12
江洲山恒明	國語國文論集(風間書房)	昭31	11
篠田 融	國文学	昭33	10
南不二男	名古屋大学國語國文学2	昭34	6
枋木孝雄	日本文学	昭38	1

平家物語の文体 中世文学の成立として

平家物語の文体

平家物語の文体研究

平家物語文体論の「ため」の覚書

平家物語の文体

平家物語（覚一本）の文体序説

平家物語における語り主体の位置 その思想と文体

保元物語の文章

保元、平治物語の文章 — その会話導入形式 — 「けるは」をめぐって —

義経記の文章

義経記おぼえがき — 文体と方法についで —

太平記の文章

太平記の文体 — 「間」と「程」 —

三三三の文章 — 「かかるところに」 —

三三三の文章の基底的性格 — 助動詞「り」による下巻の特色を中心として —

中山法華経寺本三教指帰注の文章と用語

打聞集の文章

古本説話集の文章「かなし」を中心として

「如し」と「様なり」とからみた今昔物語集の文章

今昔物語集における「別」の用法 — その文章史的考察 —

永積安明

土居光知

西田直敏

野村精一

土居光知

西田直敏

杉山康彦

内海弘蔵

下河部行輝

市古貞次

山本吉左右

佐藤喜代治

下河部行輝

下河部行輝

宮城野矢

遠藤好英

小林芳規

遠藤好英

柴田良枝

坂田零治

遠藤好英

近藤忠義教授

念論集

心世文論の成立

文学語学

諸説一覽

言葉と音律

国語と国文学

文学界

史学

佐藤喜代治教授退官論

古典研究

和光大学

国語と国文学

国語学

国語学

宮城野矢

国文学

国語学

日本語学

国語と国文学

宮城野矢

昭37

昭41

昭42

昭45

昭45

昭45

昭49

昭49

昭51

昭51

昭44

昭44

昭41

昭41

昭43

昭48

昭51

昭51

昭51

昭16

昭41

今昔物語之中心とした「クテ」「クシテ」の用法(研究発表要旨)

今昔物語集卷16の文章

今昔物語集卷17の文章

平安時代漢文訓読疑問詞疑問文の一型式
今昔物語集を中心にして

今昔物語集における助動詞「リ」について
その文章史的考察

今昔物語集の文章の性格と史的位置
会誌引用の「ク」の形式の考察を中心にして

今昔物語集の助動詞「リ」の文章史的考察
「リケリ」の形をめぐって

今昔物語集に於ける和漢両文脈の混在について
係結の表現より見たる今昔物語の文体

今昔物語集に於ける変体漢文の影響について
今昔物語集の漢文訓読文体と和文体
夢の引用形式をめぐって

今昔物語集の文体と出典に関する一考察
特に巻四・五における和文脈要素の混在について

「今昔」の文体——私の古典発見

今昔物語集の文体基調について
「由(ヨシ)」の用法を通して

漢文訓読文の引用形式と今昔物語集

今昔物語(本朝部)の文体 特に出典との関係

今昔物語集の文体の研究

出典から見た説話の文体

今昔・唐物語之中心に
(研究発表要旨)

佐藤武義	国語学	66	昭41	9
佐藤武義	山形女子短期大学紀要(1)		昭42	3
佐藤武義	山形女子短期大学紀要(2)		昭43	3
船木俊太郎	国文学言語と文芸	58	昭43	5
遠藤好英	国語学研究	7	昭42	8
遠藤好英	訓点語と訓点資料	40	昭44	6
遠藤好英	文芸研究	62	昭44	8
山田 巖	国語と国文学		昭16	10
水野良子	訖林(愛知県立女子大)	(1)	昭32	12
峰岸 明	国語学	36	昭34	3
山口佳紀	国語研究室	3	昭36	17
寒河江実	語文	17	昭39	3
杉浦明平	展望	74	昭40	2
山口佳紀	国語学	67	昭41	12
稲垣瑞穂	国語国文	35	昭41	5
松尾 裕			昭41	5
松尾 裕	明治書院		昭42	11
枅尾 武	文体論研究	10	昭42	6

今昔物語集の文体 — 変体漢文の影響を受けた説話について — (研究発表要旨)	寒江 実郎	国語学	71	昭42	12
平安時代漢文訓読疑問詞疑問文の一文型 — 今昔物語集を中心として —	船越 俊太郎	言語と文芸	10	昭43	5
今昔物語集の形成と文体 — 仮名書自立語の意味するもの —	山口 佳紀	国語と国文学	45	昭43	8
今昔物語集に於ける「以テ」の用法	山口 佳紀	人文科学紀要 (東大)	46	昭43	9
説話文体の効用 — 「今昔考」の終りに —	春日 和男	文学研究 (九州大学)	66	昭44	9
今昔物語集の文体に関する一考察 — 「事无限シ」をめぐって	橋本 仲美	国語学	77	昭44	12
今昔物語集の文体 — 変体漢文の影響を受けた説話について —	寒河江 実	語文	33	昭45	5
今昔物語集の文体の二性格 — 「事无限シ」を中心として — (研究発表要旨)	橋本 仲美	国語学	81	昭45	6
今昔物語集成立論 (今昔物語集の文体の研究) をめぐって — — 松尾拾裕氏著 —	池上 洵一	静岡女子大研究紀要	6	昭48	2
古今著聞集の文体について	峰岸 明	説話文学研究	6	昭47	2
無往の思想と文体 — 中世説話文学ノート —	大隅 和雄	日本文学	48	昭36	3
十訓抄の文章について — 接統語を中心として —	梅田 良照	語文研究 (九州大)	41	昭51	3
法語の文体 — 主格助詞「ノ・カレ」の例外用法を中心に —	松尾 拾	日本の説話	7	昭49	11
親鸞の和讃における「シム」の用法 — 鎌倉期和化漢文中の「令」に関する試論 —	重見 一行	国語国文	46	昭52	10
「歌異抄」の文体の成立 (1) — オ一章オ一文をめぐって —	伊藤 博之	成城国文学論集	2	昭44	11
「歌異抄」の文体の成立 (2) — 和歌の本質には老少善悪のひとをえらばれず	伊藤 博之	成城国文学論集	3	昭46	3
「正法眼蔵」といふ文章 — 文章研究のための試論 —	橘 豊	人文社会	30	昭38	4
正法眼蔵随聞記の言語 — 語と文章 —	橘 豊	古典と現代	18	昭38	4

正法眼蔵の文章構造——「外道」語よりみたる——

「正法眼蔵」の文体

正法眼蔵の文体的特質

正法眼蔵の文体 (第六回大会研究発表要旨)

文章体の研究

「七十五卷本正法眼蔵」の文体と語法
——とくに已然形の用法——

正法眼蔵抄仏性巻における談義文と聞書文の性格と関係

日蓮聖人遺文の文章学的研究

日蓮上人の文体——開目抄消息から——

3. 表現法

金葉集の表現技巧

俊成の表現——郭公歌一首——

俊成卿女の表現様式

西行歌風の特徴——その表現について

西行歌における心情表現の二様相

中世和歌における表現の問題
——藤原定家の「や」への意識——

定家における「色」の表現

新古今集の体言止歌の下句構造

新古今集の表現について

稿 豊

文学・語学 29

昭38. 9

石井庄司

信濃教育 872

昭34. 7

西尾 実

文学 31. 5

昭38. 5

橋 豊

文学論研究 6

昭40. 6

速藤和夫

角川書店

昭41. 10

嶺 光雄

今泉博士古稀記念
国語学論叢 (梧桐社)

昭48. 3

山上、泉

曹洞宗学研究

昭51. 3

片岡 了

日蓮聖人遺文全集講義(例)
佛教文学研究 6

昭43. 7

村本恒子

国文 32

昭45. 1

塚原鉄雄

明日香 32. 6

昭42. 6

西畑 実

白珠 20. 10

昭40. 10

西村真一

信州大学教養部紀要(4)

昭45. 1

糸賀きみ江

共立女子大学短期
大学紀要 17

昭48

山口明植

白百合女子大学研究
紀要 5

昭44. 12

古川邦子

女子大園文 85

昭49. 11

山崎敏夫

読林 7

昭35. 12

小林岩彦

文学部紀要(中京大学)
2-2

昭43. 3

新古今集の歌に見られる否定表現

新古今・表現の特性——虚構・韻律・喻法——

新古今36番歌の表現分析——特に下二句の解釈を中心として——藤田加代

和歌表現法における「ク語法」の消長

八代集を資料として——

玉葉和歌集の表現——字余り歌について——

方丈記の修辭的手法——方丈記の文体的研究（その三）

方丈記と漢文訓詁的表現

「方丈記」批判——抒情文学としての規定——

方丈記の世界——大福光寺本の論理構造

方丈記私論——「構造と意味」「叙述と抒情」

広本方丈記における五大災厄の叙述について

唐物語の文体

徒然草の論理構造

徒然草における美の機構

徒然草作者の描写的傾向

つれづれ草における美の様式とその構造

徒然草の展開と構文

兼好のつれづれの表現——徒然草初期の文を中心として——

「とほずかたり」の方法と表現

平家特有の叙事法

山崎敏夫

福山女学園大学研究
論集 4 昭48 | 3

赤羽 淑

国文学 解釈と鑑賞 39-4 昭49 | 4

安達隆一

表現研究 26 昭52 | 9

浜口博章

国語と国文学 46 | 4 昭44 | 4

菅原真静

文学研究 5 昭29 | 7

河崎正之

国語国文学 6(福井大) 昭31 | 6

菅原夏静

文学 25 | 3 昭32 | 3

正木信一

日本文学誌要 7 昭36 | 12

佐々木八郎

国文学研究 25(早大) 昭37 | 3

春山要子

語文研究 17 昭38 | 3

杉尾 武

文体論研究 9 昭41 | 11

永積安明

文学 5 | 4 昭12 | 4

西尾 実

文学 8 | 4 昭13 | 8

安良岡康作

国語と国文学 昭23 | 7

西尾 実

金田一博士古稀記念
言語民俗論叢
講座 昭28 | 5

鈴木一彦

講座 昭34 | 1

加藤惣一

広島女学院大学
国語国文学誌 昭46 | 12

八島正治

文章と批評 4 | 2 昭49 | 1

内海月杖

文章世界 昭41 | 9

平家物語の表現美

平家物語の性格造型手法
——平重盛・木曾義仲の表現をめぐって——

平家物語の異本成立の過程に對する一考察
——表現における合作の理論に基づいて——

平家物語に見える一つの表現形式について

平家物語の思想 —— 序章の表現をめぐって ——

終止文の主語表示について
——天草本イソボと平家における——

終止形による条件表現 —— 「平家物語」を中心として ——

長門平家物語の文章(一)
——文章表現と言語意識をめぐって——

平家物語に於ける表現の変遷

平家物語の詞章美

中世国語の命令表現 —— 「平家物語」を中心として ——

平家物語における敗北の表現
——出家・流罪・敗走を中心にして——

「平家物語」諸本の展開 —— 中世的世界の表現として ——

平家物語・「あはれなり」の表現価値

平家物語に見える武装の描写

太平記の考察 —— 批判表現を通して ——

今昔物語と宇治拾遺物語
——主としてその表現形式を覚書風に ——

受身の表現を巡って訓点語から今昔物語の用語へ

富倉徳次郎

解釈と鑑賞

昭16・5

西田直敏

解釈

昭32・5

時枝誠記

国語研究(国学院)

昭33・11

西田直敏

国語と国文学

昭34・12

永積安明

文学³⁰・8
中世文学の成立

昭37・68

木之下正雄

国語研究(大和文庫)

昭38・12

京極興一

成蹊大学文学部紀要

昭41・1

西田直敏

国語国文研究

昭42・2

笠 柴治

解釈と鑑賞

昭42・13

長谷川敏正

東横国文学

昭43・12

西田直敏

国語と国文学

昭45・10

蟹江秀明

湘南文学(5・6合併号)

昭47・12

永積安明

日本古典文学会会報(9)

昭48・3

藤尾恭子

武庫川国文5

昭48・3

鈴木敏三

国学院雑誌

昭50・11

西村アツ子

佐賀大学文学論集7

昭41・2

森永種夫

国語と国文学

昭9・12

大坪併治

国語と国文学41・10

昭39・10

今昔物語集における「モシ」を伴う条件法について
 今昔物語集の文体について(1)(2)——直喩表現の分析から——
 今昔物語集「目録」考——その表現形式について——
 今昔物語集の象徴詞——表現論的考察——
 「今昔物語集」における動詞の反復表現
 「カヘスカヘス型」の反復形式を中心として——
 今昔物語集の受身表現に関する一考察
 今昔物語集同一動詞反復形式について——
 今昔物語の倒置法
 院政時代における仮定表現——今昔物語集を中心として——
 今昔物語の表現の特性(1)——和歌説話を中心として——
 親鸞の方法——歎異抄の表現を中心として——
 「歎異抄」の構成と表現についての覚え書(1)
 「歎異抄」の構成と表現についての覚え書(2)
 正法眼蔵の執筆意図と叙述法
 正法眼蔵の全体的解明のために——
 「正法眼蔵」の表現に関する研究史ならびに問題点
 道元禪師の文章——その表現意識について——
 「灌阿弥陀仏偈和讃」表現考

佐藤武義	文芸研究	52	昭41	2
山口仲美	国語と国文学	49	昭45	11, 2
山口康子	語文研究	31, 32	昭46	10
山口仲美	王朝	5	昭47	5
日野資礼	人文論集(静岡大)	23	昭47	12
山口康子	長崎大学教育学部 人文科学研究報告	22	昭48	3
山口康子	人文科学研究報告	22	昭49	8
大坪併治	国語学	99	昭49	12
小杯賢次	佐伯梅友博士喜寿記念 国語学論集		昭51	12
田沢卓苗	日本語学試論	2	昭51	6
武石彰夫	解釈	5, 8	昭34	8
伊藤博之	藤女子大学紀要	5	昭42	12
伊藤博之	藤女子大学国文学雑誌	56	昭44	7
樋 豊	国語と国文学	41, 4	昭39	4
中野捷三	古奥遺産	19	昭44	3
長沢智雄	京都府立官津高等学校 研究紀要	7	昭46	3
中川浩史	仏教文学研究	11	昭47	6

敬語と身分——八代集の詞書と材料に——

国語史より見たる「讀政典侍日記」の用語について
——侍遇表現を中心にして——

「讀政典侍日記」における敬語

讀政典侍日記における補助動詞「まゐらす」について
——「とはずがたり」の敬語——御十形容詞十覚え給ふ——

石山寺本大唐西域記長寛点の敬語

漢文訓読にみられる侍遇表現について

宸記に見える所謂「自敬表現」について
——伏見天皇宸記・忍園天皇宸記を中心にして——

天皇のことば——鎌倉時代の宸記宸翰の「自敬表現」を中心にして——
西田直敏

書簡史的に見た「侍り」と「候ふ」との推移について
服部嘉香

書簡作法書における侍遇表現

古往來の敬語法——院政鎌倉時代の古往來五種について——
采田 隆

鎌倉時代における形容詞の敬語表現について
——金沢文庫古文書を中心にして——
近藤政美

徒然草・方丈記の敬語

徒然草の言語——敬語法

徒然草の「侍り」

徒然草における「申す」の用法について
つれづれ草の「侍り」をめぐって
——敬語を規定する「公」と「私」——

「徒然草」の助詞・助動詞——敬語表現

玉上琢弥

森野宗明

石井文夫

宮腰 賢

和田利政

宇都宮隆男

武田 孝

西田直敏

服部嘉香

橋 豊

采田 隆

近藤政美

西尾寅次

杉崎一雄

虫明吉次郎

桑原三二

森重 敏

佐藤武義

国語国文

佐伯梅友博士古稀記念
国語学論集(表現社)

同石

国学院雑誌

国学院雑誌 68 1 2

国語教育研究 15

解説

国語国文研究 50

藤女子大学国文学雑誌 46

金田一博士古稀記念
言語民俗論叢

国語と国文学

福岡教育大紀要 24 1 1

名古屋大学国語国文学 30 昭 48 1 6

敬語講座(3)

徒然草講座 4

解説 2 1 4

武蔵野文学

女子大国文

月刊文法

昭 44 1 5

昭 44 1 6

昭 44 1 6

昭 46 1 12

昭 42 1 12

昭 43 1 8

昭 45 1 5

昭 47 1 10

昭 49 1 10

昭 28 1 5

昭 47 1 12

昭 50 1 2

昭 48 1 6

昭 49 1 3

昭 49 1 11

昭 31 1 4

昭 32 1 7

昭 33 1 2

昭 45 1 8

つれづれ草の「侍り」をめぐつて
 平家物語流布本の敬語表現
 平家物語の敬語法
 平家物語の敬語法
 平家物語における敬語
 平家物語に於ける敬語
 「平家物語」における敬語の問題点
 平家物語の敬語
 平家物語語り本から見た義仲説話の考察
 「平家物語」の謙讓表現の一種
 平家物語に於ける符憑表現
 平家物語におけるいわゆる三重敬語の表現について
 平家物語（覚一本）の自敬表現
 平家物語に於ける「三重敬語」とその敬慮度について
 「召す」と「召さる」——覚一本平家より見たる——
 平家物語諸本における形容詞の敬讓表現について
 平家物語諸本における形容詞の敬讓表現について
 平語物語の「候ふ」
 まゐる・まゐらす者——平家物語を中心として——
 中世前期の平家物語を賣料として——

森重 敏	日本文法の諸問題(並間)	昭46	10
岡村(管坂)和江	実践女子大学紀要5	昭32	9
岡村和江	日本文法講座4(明治)	昭33	
岡村和江	講座解釈と文法5(明治)	昭34	10
篠田 融	国文学5	昭35	2
西田直敏	国文学11	昭41	7
三浦和雄	軍記物とその周辺	昭44	12
西田直敏	敬語講座3	昭49	12
春日 宣	野州国文学1	昭50	4
鎌田 玄夫	中世説話文学論序説	昭48	12
川岸敬子	皇立米沢女子短期 大学紀要8	昭49	2
近藤政美	国文40	昭50	12
西田直敏	澁杯24	昭51	3
近藤政美	野田教授退官記念日本 文学新見 研究と資料	昭51	3
田村 忠士	名古屋大学国語国文学系	昭51	6
近藤政美	解釈 21	昭50	6
近藤政美	澁杯 19	昭45	12
西田直敏	平家物語索引掲載論文	昭48	4
宮地幸一	国語と国文学 4	昭43	2
吉田洋子	国学院雑誌 72	昭46	1
	親和国文 4	昭46	3

覚一本平家物語の「一奉る」と「参らす」について

平家物語における補助動詞「奉る」「参らす」「申す」(5)(6)

平家物語の「候ふ」

平家物語における命令形「候へし」の表現価値

「保元物語」「平治物語」における「行遇」表現について

太平記の敬語

撰集抄の「待り」

「待り」と「候ふ」の分布より見た「法華修法一百座
聞書抄」の文体

法華百座聞書抄の敬語法

小林芳規博士編「法華百座聞書抄索引」に寄せた
「待り」と「候ふ」余説

古本説話集「目錄」の性格

今昔物語集の敬語——敬語と文体——

今昔物語集の「候ふ」と「待り」

今昔物語集の敬語ル・ラル

今昔物語集の敬語一班

今昔物語集のオボス・ノタマフなど

今昔物語集のムと尊敬語

今昔物語集の申ス

今昔物語集の申スから見た古代敬語試論

和田利政

川岸敬子

西田直敏

西田直敏

見野久幸

榎山英

桜井光昭

春日和男

春日和男

春日和男

山口康子

松尾裕

桜井光昭

桜井光昭

桜井光昭

桜井光昭

桜井光昭

桜井光昭

今泉博士古稀記念
国語学論叢

国文学研究 61, 62

国語と国文学 45, 2

古典の諸相

文学論叢 40

国語国文 11, 7

国語学 99

佐伯梅友博士古稀記念
国語学論叢

法華百座聞書抄索引

国文学攷 71

説話文学研究 8

敬語講座 3

国語学 40

学術研究 12

早稲田大学語学教育
研究所紀要

文学・語学 36

国語学 62

学術研究 14

三〇

昭 48 | 12

昭 52 | 3, 6

昭 43 | 2

昭 44 | 11

昭 43 | 12

昭 16 | 7

昭 49 | 12

昭 44 | 6

昭 50 | 3

昭 51 | 8

昭 48 | 6

昭 49 | 3

昭 35 | 3

昭 38 | 8

昭 39 | 1

昭 39 | 12

昭 40 | 6

昭 40 | 9

昭 40 | 12

今昔物語集における敬語——下段補助動詞「給ふ」について——山田 巖	国文学 11, 8	昭41, 7
今昔物語集「目録」における行遇表現	山口康子	昭47, 3
国語史上からみた「宇治拾遺物語」の「侍り」と「候ふ」	佐藤武義	昭48, 11
宇治拾遺物語の「申ス」	田嶋虎造	昭51, 12
御伽草子・仏教文学の敬語	佐藤 茂	昭49, 3
地の中の「侍り」について——中世の「源管抄」の用法から——	武田 寿	昭44, 2
日蓮聖人遺文の「まいせ」について	高橋一夫	昭34, 2
日蓮聖人ご遺文の国語学的研究——体言と行遇意識——	春日正三	昭42, 1
日蓮聖人ご遺文の国語学的研究③——助詞「の」が「の」行遇意識	春日正三	昭44, 12
日蓮聖人消息中の「候」について——語法の記述的考察——	岡田 喬	昭44, 12
歌集の敬語についての一考察	古橋恒夫	昭43, 8
国文学	11, 8	昭41, 7
長崎大学教育学部人文		
科学研究所報告	21	昭47, 3
国語と国文学		昭48, 11
高知大博文	7	昭51, 12
敬語講座	3	昭49, 3
解釈	15, 2	昭44, 2
国立国語研究所論集		昭34, 2
ことばの研究		
立正大学国語国文		昭42, 1
立正大学人文科学研究		昭44, 12
所年報	7	昭44, 12
愛媛国文研究	19	昭44, 12
若文政	1	昭43, 8

工 方言

方言と古文書

方言史料としての古文書・古記録

東国所在の院政鎌倉時代二文献の用語

実朝の坂東語

教行信証の訓点は坂東語か

親鸞・道元の表現——東国的と思惟的について——

日蓮の文章に東国方言の要素はあるか

II 文語・口語

中世国語における文語の研究

中世文語の研究

口語的表現の語彙——「フ」から「ス」——

文語体系から口語体系へ——国語の近代化——

「閑吟集」の口語について

平家物語と近代語

平治絵詞の口頭語について

曾我物語の口語——その成立論の手掛りのために——

福田良輔

追野彦徳

小杯芳規

及川敬一

吉沢義則

菊池良一

都築通年雄

方言研究のすべて(全三巻) 昭44・9

方言研究の問題点(明治) 昭45・8

方言研究の問題点 昭45・8

国語国文研究 45 昭45・2

国語国文論叢 大12・4

国語国文の研究 昭31・9

国語学 90 昭49・9

山口明徳

根来 司

吉田金彦

佐伯哲夫

三上悠紀夫

佐伯梅反

矢代和夫

鈴木 進

明治書院 昭51・8

笠間書院 昭51・2

国語国文 28・4 昭34・4

文芸 1・6 昭44・4

訂量国語学 40 昭42・5

武蔵野文学 9 昭36・12

古典遺産 昭39・5

兵松南高校研究紀要 昭46・2

II 言語生活

平家物語に現れる文書について——院政期の言語生活——
保元、平治物語に現れた時間意識
夢をめぐる中世人の生活意識

橋 豊
岩竹 亨
古川 哲史

古史と現代 35
昭 46 1 10
国文学攷 14
昭 30 1 5
日本における倫理思想
の展開(吉川弘文館) 昭 40 1 12
中世軍記物の研究続々 昭 46 1 1

(二五六頁からつづく)

漢籍の古本に用いられた濁音符
——特に博士家に於ける使分けについて——

古本本の片仮名の濁音表記について

漢音韻資料における濁点
——濁点の発生に関する私論——

四部合戦状平家物語の關係を廻つて
——合戦状平家物語の關係を廻つて

三卷本色葉字類抄につけられた朱の合点について

仁和弁蔵泰中吟述慶二年書写加點本しにおける合點について
——合點本曰本書紀の合點について

簡字沿革統貂

返点の沿革

返り点の諸型式について(高山寺本古往末)

小林芳規

築島 裕

沼本克明

高橋伸幸

船成俊太郎

西宮一民

川林芳規

川林芳規

島原泰雄

25 広島大学文学部紀要 昭 40 1 12

国語研究 33 昭 47 1 3

国語国文 44 3 昭 50 1 3

国語国文 45 8 昭 51 1 8

二松学舎大学論集 50 年度 昭 51 1 3

国語学の世界 3 昭 48 1 3

ビアリア 64 昭 51 1 10

広島大学文学部紀要 27 昭 42 1 12

1 訓点語と訓点資料 54 昭 49 1 5
王朝文学 12 昭 40 1 11

1. 辞書・音義

- 圖書寮本類聚名義抄和訓索引
- 圖書寮本類聚名義抄漢字索引
- 圖書寮本類聚名義抄及名索引
- 圖書寮本類聚名義抄出典索引
- 圖書寮本類聚名義抄和訓索引
- 圖書寮本類聚名義抄漢字索引
- 高山寺本類聚名義抄 附觀智院本河原傳訓索引
- 類聚名義抄 (仮名・漢字索引)
- 類聚名義抄漢字索引上
- 類聚名義抄四種声点付和訓集成
- 色葉字類抄研究並びに施索引
- 色葉字類抄漢字索引 1, 5, 7
- 色葉字類抄和訓索引 上・中下
- 伊呂波字類抄因語索引
- 字鏡集 附字訓索引
- 世尊寺本字鏡 漢字索引 1 (古辞書索引叢刊)

吉田金彦	私家版	昭31 1
酒井憲二	訓点語と訓点資料	昭47 4
酒井憲二	訓点語と訓点資料	昭48 4
橋本不美男	書陵部記事	昭44 3
宮沢俊雄	勉誠社	昭51 1
宮沢俊雄	勉誠社	昭51 1
京都大学国文学部国文学研究室	国語国文 202	昭26
正宗敦夫	風間書房	昭30 6
正宗敦夫	日本古典全集刊行会	昭23
望月郁子	笠間書院	昭49 3
中田祝夫	風間書房	昭39 6
峰岸祝明	私家版	昭39 6
島田友啓	私家版	昭41 44
島田友啓	私家版	昭46 47
木下正俊	私家版	昭32
野口恒重	巧芸社	昭8
島田友啓	私家版	昭51 10

金剛頂經一字頂輪王儀軌音義索引 (初訓字音彙字)

慧琳一切經音義反切索引

同石 補正録

一切經音義索引

大般若經音義傳訓反名索引

法華經音訓和訓索引

法華經音訓反名索引

法華經音訓漢字索引

法華經單字反名索引

法華經單字漢字索引

節用文字反名索引

節用文字漢字索引

中世古辭書 四種 研究並びに索引 解題

和名類聚抄古写本声点本 本文および索引

京大本平他字類抄因語索引

又 悉曇・訓点資料

仁和寺藏委中吟延慶二年書字加點本付訓索引
古点本の国語学的研究——談文篇

築島 裕 高山寺古辞書資料第一 昭52 3

神尾式春 種風荘 (私家版) 昭51 5

神尾式春 種風荘 (私家版) 昭52 5

山田孝雄 西東書房 綴製補訂版(餘不学術財団) 昭大3814

木下正俊 私家版 昭31

築島 裕 訓点語と訓点資料 昭31 4

島田友啓 私家版 昭40 8

島田友啓 私家版 昭40 8

島田友啓 私家版 昭39 12

島田友啓 私家版 昭39 12

島田友啓 私家版 昭39 12

中田祝夫 風間書房 昭46 7

馬淵和夫 風間書房 昭48 6

馬淵和夫 臨川書店 昭48 11

京都大学文学部国語学研究室 昭48 11

来田 隆 訓点語と訓点資料 45 昭46 9
中田祝夫 謹談社 昭33 3

長承本蒙求字音点 仮名索引・画引索引
 興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点の国語学的研究 索引篇
 上野図書館蔵大慈恩寺三蔵法師伝巻第三 古点訓読・
 音読・注記索引

築島 裕 訓点語と訓点資料 昭34.5
 築島 裕 東京大学出版会 昭41
 築島 裕 東京大学人文科学科礼 昭33
 要16

3 和歌・歌謡

金葉集権索引
 詞華集権索引
 千載集権索引 八笠間索引 叢刊 2Y
 新古今集権索引
 新古今集助動詞索引
 藤原定家全歌集全句索引 本文篇
 同 右 索引篇
 西行和歌各句索引
 西行法師全歌権索引 1 山家集
 建礼門院右京大夫集 校本及び権索引
 金穂和歌集助動詞索引 1 歌の部
 鎌倉右大臣集及び権索引
 玉葉索引 藤原兼実の研究
 古今和歌集片点本の研究 索引篇

清水瑞枝 清 昭43.12
 滝沢貞夫 明 昭47
 滝沢貞夫 明 昭47
 滝沢貞夫 明 昭47
 滝沢貞夫 明 昭47
 国語学研究会 愛媛大学文学部 昭42.4
 赤河 淑 笠間書院 昭48.2
 赤河 淑 笠間書院 昭48.3
 山本幸一 私家版 昭42
 白田昭吾 非売 昭45.6
 井狩正司 笠間書院 昭44.9
 鎌田良三 甲南国文19 昭47.3
 久保田淳 笠間書院 昭47
 多賀宗牟 吉川弘文館 昭49.3
 秋枝一枝 杖倉書房 昭49.3

明題和歌全集全句索引

東洋文庫蔵明憲上人歌集 本文と索引

梁塵秘抄秘語索引 歌集卷之

梁塵秘抄秘語索引

閑吟集秘語索引

極楽願往生歌 本文・索引稿

極楽願往生歌・明憲上人歌集 本文と索引

古今訓点抄秘語索引

古今訓点抄し品詞別索引并に覚書

4 物語・日記

松浦宮物語秘語索引

西行物語絵書詞書本文並びに索引

義経東下り物語 本文翻訳、用語索引

うたゝね 本文および索引

十六夜日記 本文及び索引

十六夜日記語彙表(下)

三村晃功 福武書店

小次ヲト子 国語史研究資料稿(3)

吉田節子 私家版

小林芳規 武蔵野書店

高梨敏子 武蔵野書店

千鶴子 野村 代

東江保和 高知大図文 創刊号

雅光 高知大図文

山田巖木村最 笠間書院

神戸大学 国語 神戸大学国語研究会

東江保和 高知大学 学術研究報告

菅根順之 笠間書院

加藤和子 緑苑 11

大谷大因 文学研究室

次田香澄 笠間書院

江口正弘 笠間書院

加藤近藤 東海学園 国語国文 6

昭51 1 2

昭51 1 2

昭36

昭47 1 9

昭44 1 1

昭45 1 7

昭50

昭34

昭48

昭49 1 9

昭51

昭51 1 3

昭52 1 2

昭47 1 8

昭49 1 3

当麻曼茶羅縁起詞書並ひに本文索引

蒙古襲来絵詞詞書 本文並ひに索引

吉備大臣入唐絵詞。吉備大臣物語本文並ひに索引

男食三郎絵巻詞書 本文並ひに索引

5 随筆

玄本略平方丈記索引

徒然草分類索引

徒然草索引

改訂版徒然草索引

徒然草語彙索引

日本随筆索引

続日本随筆索引

6 紀行

海道記索引

7 記録・史書・評論

加藤和子・加藤裕子・田島毓生

田島毓堂

田島毓堂・倉田理恵・折平五二子

田島毓堂
平野由美子

東海学園国語国文 8

東海学園国文叢書 6

東海学園国語国文 9

東海学園国語国文 10

三一八

昭 50

昭 50 10

昭 51 3

昭 51 9

青木伶子

黒田 亮

時枝誠記

時枝誠記

大野 晋

太田為三郎

太田為三郎

武蔵野書院

岩波書店

至文堂

至文堂

解釈上鑑賞

岩波書店

岩波書店

昭 40 10

昭 11

昭 30

昭 42 6

昭 37 6

大 15

昭 7

鈴木一彦・辰田知之・中山緑胡

明治書院

昭 51 11

高山寺古往来秘索引
 却庵忘記秘索引 全
 高山寺観明上人夢之記秘索引 才一篇
 吳文炳氏蔵本自行三時礼功徳義秘索引
 大東急記念文庫蔵光明真言土沙勤信記秘索引
 吾妻鏡秘索引
 無名草子秘索引

8 軍記物記

平家物語秘索引
 平家物語秘索引
 平家物語動詞・形容動詞索引 (一) (三)
 同 右 (四)
 平家物語助詞・助動詞索引
 四部合戦状本平家物語訓列索引稿 (1) (2)
 神道集本文の整理 (2)

9 説話

小林芳現 東京大学出版会 昭47 1 3
 築島 裕 東京大学国文研究室有正 昭50 1 3
 築島 裕 中央大学国文研究室有正 昭50 1 1
 三保忠夫 非売 国語史研究資料稿 昭50 1 7
 三保忠夫 非売 国語史研究資料稿 昭50 1 10
 及川大溪 日本学術振興会 昭50
 坂詰力治 笠間書院 昭50

金田一春彦 学習研究社 昭48 1 4
 清水功近 蔵政美
 笠 栄治 非売 昭48 1 4
 曾田文雄 紀島根大学文学部 昭47 3 4
 曾田文雄 紀島根大学文学部 昭50 1 12
 細田隆子 紀島根大学文学部 昭45 1 10
 清水政美 国語学談話会 昭43 1 3
 村上崇 静岡女短大研究紀要 昭44 1 4
 村上崇 同 昭44 1 4

日本説話文学七種索引稿

日本説話文学索引

増補改訂説話文学索引

法華修法一百座聞書抄 主要語句索引

法華百座聞書抄用語語索引

法華百座聞書抄漢字索引(1) (4)

法華百座聞書抄索引

総索引付打聞集

前田本三宝縁辰名索引稿

宇治拾遺物語総索引

閑居友——本文及び総索引

唐物語——校本及び総索引

百本説話集総索引(1) (2)

古本説話集総索引

九册本宝物集語句索引

今昔物語集文節索引 卷一

同 石 卷二、卷六

矢島玄亮

東北大学図書館

大15

平林石山 増田

日本出版社
複刻(清文堂)

昭18 17

増田四郎
和田亮司

清文堂

昭49 9

細見修

王研文学5
私家版

昭36 2

遠浦持也

国文学会誌(新編大)17, 29, 昭48 51

昭49

遠浦持也

武蔵野書院

昭50 3

小杯芳規

説話集研究会編
学資料第八輯

昭27 1

石垣謙二

国語

昭27 1

宮田裕行

東洋大学短期大学紀要8, 昭51

昭50 2

増田繁夫

清文堂

昭50 2

峰岸明
王朝文学会編

笠間書院

昭49

池田利夫

笠間書院

昭50

広島大学文学部
国語学研究室

本島大学文学部
国語学研究室

昭33 34

山内洋一郎

鳳間書房

昭44 4

大野隆也
永田信也

私家版

昭49 12

馬淵和夫
野沢勝天編

笠間書院

昭51 2

馬淵和夫
馬淵昌子編

私家版

昭48

今昔物語集文節索引

卷三

同石

卷五

同石

卷七

同石

卷十一

同石

卷十二

同石

卷十三

同石

卷十七

同石

卷廿

同石

卷廿二

同石

卷廿三

同石

卷廿四

同石

卷廿五

同石

卷廿六

同石

卷廿七

同石

卷廿九

同石

卷卅

馬淵和夫監修
馬淵昌子編
笠間書院

昭45, 10

山口佳紀監修
山口仲美
笠間書院

昭48, 10

馬淵和夫監修
深野浩史
笠間書院

昭49, 9

馬淵和夫監修
有賀小杯育田坂入榎山
笠間書院

昭46, 3

馬淵和夫監修
有賀坂入
笠間書院

昭45, 9

馬淵和夫監修
有賀坂入
笠間書院

昭46, 5

坂田友宏
笠間書院

昭48, 5

馬淵和夫監修
笠間書院

昭48, 1

馬淵昌子
笠間書院

昭48, 3

大久保恵子
笠間書院

昭49, 10

馬淵和夫監修
有賀嘉壽子編
笠間書院

昭47, 5

小池清治
笠間書院

昭47, 5

有賀嘉壽子
笠間書院

昭47, 7

大久保恵子
笠間書院

昭49, 4

国語文学会
東海大学国語文学部
国語文学会

親鸞聖人著作用語語索引 教行信証の部

同 右 和漢撰述の部

惠信尼坂名写経 (本文と索引)

正法眼蔵要語索引 (上) (下)

正法眼蔵真筆本秘索引

正法眼蔵隨聞記秘索引

正法眼蔵隨聞記語彙表 上

同 右 下

龍谷大学真宗学会編 昭41 3

龍谷大学真実学会編 昭46 5

高田五郎 金天大学法文学部 昭37

加藤宗厚編 理想社 昭38 3

田島毓堂 東海学園国文叢書

田島毓堂指導 東海学園国文叢書

近藤洋子他五名 東海学園国語国文3 昭47 3

同 右 東海学園国語国文4 昭48